

# 令和7年度第1回高知県周産期医療協議会

日時：令和7年10月16日（木） 19時～

場所：Web 及び集合（高知県庁 2階 第二応接室）

## 会 次 第

### 1 開 会

### 2 内 容

- 1) 「高知県の将来を見据えた周産期医療体制ロードマップ」の取組状況について .. 【資料1】P1～
- 2) 産後ケア事業等について ..... 【資料2】P10～
- 3) その他 ..... 【資料3】P21～

### 3 閉 会



令和7年度第1回高知県周産期医療協議会  
出席者名簿

1 委員等

所 属	氏 名	備 考
高知地域医療支援センター長兼高知大学医学部特任教授	藤枝 幹也	会場
高知大学医学部産科婦人科学講座准教授	永井 立平	会場
高知県医師会常任理事	吉川 清志	会場
高知県産婦人科医会会長	坂本 康紀	会場
高知県小児科医会会長	船井 守	会場
高知大学医学部小児思春期医学講座教授兼高知大学医学部附属病院周産母子センター長	池田 真理子	Web
高知大学医学部小児思春期医学講座助教兼高知大学医学部附属病院周産母子センター副センター長	三浦 紀子	会場
独立行政法人国立病院機構高知病院産科医長	滝川 稚也	会場
独立行政法人国立病院機構高知病院小児科医長	高橋 芳夫	会場
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター産科長	渡邊 理史	会場
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター総合周産期母子医療センター副センター長兼小児科長兼新生児科長	中田 裕生	会場
高知赤十字病院第一産婦人科部長	谷口 佳代	Web
高知赤十字病院第一小児科部長	中山 智孝	欠席
高知県立あき総合病院副院長兼東部周産期センター長兼産婦人科部長	池上 信夫	Web
高知県立あき総合病院副院長小児科部長	前田 賢人	Web
高知県立幡多けんみん病院産婦人科部長	濱田 史昌	Web
高知県立幡多けんみん病院小児新生児部長	松下 憲司	Web
高知県看護協会会長	森下 安子	会場
高知県看護協会助産師職能委員長	嶋岡 暢希	会場
高知県助産師会会長	宗石 きみ子	会場
高知市消防局救急課課長補佐	川窪 隆寛	会場

2 オブザーバー

所属・職名	氏 名	備 考
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター副院長兼地域医療センター長	林 和俊	会場
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター総合周産期母子医療センター長	西内 律雄	会場
高知市母子保健課課長	植田 高子	会場
高知市母子保健課課長補佐	小松 千穂	会場

3 事務局等

所属・職名	氏 名	所属・職名	氏 名
健康政策部長	中嶋 真琴	安芸福祉保健所健康障害課長	倉本 玲子
健康政策部医療政策課長	高橋 宏和	中央東福祉保健所健康障害課長	田内 佳子
健康政策部医療政策課企画監	宮地 洋雄	中央西福祉保健所次長兼健康障害課長	濱田 純
健康政策部医療政策課チーフ	島村 尚伸	須崎福祉保健所健康障害課長	山本 貴子
健康政策部医療政策課主幹	下田 真梨子	幡多福祉保健所健康障害課長	宗崎 由香
子ども・福祉政策部子育て支援課 母子保健・子育て支援室長	川崎 利江		
子ども・福祉政策部子育て支援課 母子保健・子育て支援室 チーフ	川村 真奈恵		

## 高知県周産期医療協議会設置要綱

### (要旨)

第1条 この要綱は、県民の安心・安全な出産環境づくりを総合的に推進するため、周産期死亡率改善などの課題について協議し、今後の総合的な周産期保健医療システムのあり方について検討を行う「高知県周産期医療協議会」(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

### (任務)

第2条 協議会は第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議するとともに当該事項の推進にあたるものとする。

- (1) 保健・医療の連携システム
- (2) 医療施設間の機能分担と連携システム
- (3) 上記を検討するために必要な調査、研究
- (4) 周産期医療関係者の研修
- (5) その他目的達成のため必要な事項

### (組織)

第3条 協議会は、学識経験者、(社)高知県医師会、高知県内の医療機関及び(社)高知県看護協会等の関係者の中から高知県知事が委嘱する委員25名以内で構成する。

2 協議会は、第2条の内容を協議するため、必要に応じて実務者レベルの部会を設けることができる。

### (任期)

第4条 委員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じたとき、後任委員の任期は前任者の残任期間とする。

### (会長)

第5条 協議会に会長1名及び副会長3名をおき、委員の互選をもって定める。

- 2 会長はこの会を統轄する。
- 3 会長に事故ある時は副会長が職務を代行する。

### (顧問)

第6条 協議会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、会長が推薦し、高知県知事が委嘱する。

### (協議会の開催)

第7条 協議会は必要に応じて開催し、会長が招集し議長をつとめる。

- 2 協議会は、必要に応じて専門的な助言及び意見を得るため、委員以外の者の出席を求めることができる。

### (事務局)

第8条 協議会の事務局は、高知県健康政策部医療政策課に置く。

### (雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか協議会の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成20年5月1日から施行する。

なお、この要綱の施行に伴い、「周産期医療協議会設置要綱」は廃止する。

附 則

この要綱は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 24 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 4 年 11 月 11 日から施行する。

# 高知県の将来を見据えた周産期医療体制ロードマップ

## 未来につながる、高知家の周産期医療を目指して

★：高知県医師会からの提言に係る項目  
 ——：取組事項    ----：取組予定事項

- 取組方針**
- I. 県民が安心して「妊娠」「出産」できる安全な周産期医療体制を確保する。
  - II. 県内において、周産期医療にかかる医師（産科婦人科医及び小児科医）を、安定的に確保する。
  - III. 助産師の活躍の場を拡大するとともに、役割拡大に伴う人材を確保する。
  - IV. 安心して「妊娠」「出産」できるよう、県民への支援の拡充及び周産期医療にかかる情報の周知を行う。

**網掛け：令和7年度10月時点での主な取り組み事項**  
 （全体の取り組みについて資料1-2にて説明。濃い網掛け部分は、別途説明）

取組事項	当面の到達目標 (R9まで)	R6 (第8期保健医療計画スタート) → R7 → R8 (第8期保健医療計画中間見直し) → R9				中長期的(R10~)な方向性
【取組1】 周産期医療体制の確保	1) ハイリスク分娩体制の確保	① 周産期母子医療センター（ハイリスク分娩体制の拠点）としての機能を2病院に確保			② 第9期保健医療計画に向けた高次周産期医療体制のあり方の協議	<b>周産期医療体制の効率化などによる安全性・持続可能性を確保する</b> ・ハイリスク妊婦がさらに減少した場合でも、分娩体制の安定的な確保に向け2施設間の役割分担の見直しなど、さらなる検討と対策の実施 ・持続可能なローリスク分娩体制の構築 ・分娩体制の随時点検を実施（出生数、医療従事者数、施設の意向など） →必要な場合は集約化等を検討★ （県中央部へのさらなる大規模分娩取扱施設の整備） ・妊産婦の新たなニーズへの対応
	2) ローリスク分娩体制の確保	<b>資料1-3</b> 安芸、中央、幡多地域でのローリスク分娩体制の確保（出生数、施設毎の医療従事者数や次年度の体制等を随時確認しながら、可能な応援体制を検討のうえ、実施） <b>資料1-4</b> ① 院内助産システムの準備（県立あき総合病院）				
		（安芸地域） ① 院内助産システムの実施				
		（中央地域） ② 高知赤十字病院に医師を応援派遣し、縮小していた分娩体制を回復 ③ 医師数の急減等に備え、分娩取扱施設の集約化や院内助産システムの体制整備などの必要な対策をあらかじめ検討・調整★		②③ 出生数や医師数等の動向を勘案し、R8中間見直し後の保健医療計画に基づく対策実施の必要性を見極め、院内助産システムの導入や分娩取扱施設の集約化などの必要な対策を実施★		
		（幡多地域） ④ 分娩取扱施設の安定的な運営に向けて医師確保等を行うとともに、院内助産システムを活用した分娩体制等の必要な対策の検討・準備★			④ 院内助産システムの導入等対策の実施	
3) 遠方の妊婦等への支援（連携体制強化）	遠方の地域でも安心して妊娠、出産ができるよう、医療機関の連携を強化 ・セミオープンシステム 遠くの分娩取扱施設に行く必要がある方も、妊婦健診等は最寄りの健診施設で受けられるよう施設間で情報共有を行う仕組み ・ICT機器（遠隔分娩監視装置等） 胎児心拍や子宮の収縮状態などのデータを遠隔で共有・確認する機器	① 県内統一のセミオープンシステムを検討（産婦人科医会）★	① 県内統一のセミオープンシステムを導入	① セミオープンシステムの活用	① セミオープンシステムの活用・適時見直し	<b>県民が安心して妊娠、出産できる安全で持続可能な周産期医療体制を確保</b> ・医師や助産師が研鑽できる体制を確保（分娩に関する新しい技術の取り入れなど） ・周産期医療圏や周産期機能などのさらなる見直し（集約化、重点化について検討）
		② 周産期医療に係る電子カルテ情報の共有ツールの検討★（国の医療DXの動向を踏まえながら）		③ 安全性と有用性を確認しながら順次導入（機器への習熟と本格導入）	② 情報共有ツールの導入・適時見直し ③ 安全性と有用性を確認しながら順次導入（機器への習熟と本格導入）	
4) 各医療機関の機能の見直し	各医療機関の周産期機能や婦人科機能の見直し		① 現行の周産期医療圏（安芸、中央、高幡、幡多）の設定について、施設の配置や患者動向に合わせた見直しに向け協議			①~③の実施・適時見直し
5) 妊産婦の多様なニーズへの対応	無痛分娩の導入		① 無痛分娩の導入準備（医療従事者の育成など）	① 脳血管や心臓の疾患など医学的に必要な分娩への無痛分娩導入	① 妊婦のニーズに合わせて、その他の分娩への無痛分娩導入	<b>医療従事者が意欲を持って働ける環境の整備</b>

第8期保健医療計画中間見直し（R8）への反映

第9期保健医療計画（R12）への反映



取組事項		主な取組状況
【取組 1】 周産期医療体制の確保	2) ローリスク分娩体制の確保	<p>【取組状況】</p> <p>「令和 7 年度第 1 回周産期医療のあり方検討会」を開催し、令和 7 - 8 年度の検討事項の確認及び、現状の分娩取扱体制の確保状況について確認</p> <p>【別途説明事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 周産期医療のあり方検討会での協議内容について</li> <li>◎ 高知県立あき総合病院の院内助産システム準備状況について</li> </ul>
	3) 遠方の妊婦等への支援（連携体制強化）	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年 4 月から県内統一のセミオープンシステムを導入</li> <li>・「連携体制強化に向けた ICT 活用にかかるワーキング」を立ち上げ、情報共有ツールや ICT 機器の活用について検討開始（第 1 回：R7.6.12、第 2 回：12 月頃予定）</li> </ul> <p>【別途説明事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ セミオープンシステムの導入状況について</li> </ul>
	5) 妊産婦の多様なニーズへの対応	<p>【取組状況】</p> <p>令和 7 年度より高知大学医学部附属病院にて無痛分娩提供体制構築プロジェクト開始</p> <p>【別途説明事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 無痛分娩提供体制構築プロジェクトについて</li> </ul>
【取組 2】 医師確保・育成	6) 医師育成・専攻医確保支援	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県医師養成奨学金貸付金の令和 7 年度新規貸与状況（特定科目加算貸与実績より） 産婦人科：2 名（R6：1 名） 小児科：2 名（R6：2 名）</li> <li>・県内の令和 7 年度専攻医採用状況 産科婦人科：7 名（R6：0 名） 小児科：2 名（R6：3 名）</li> </ul>
【取組 3】 助産師の確保及び活躍の場の拡大	8) 助産師確保・育成	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度高知県助産師確保対策奨学金新規貸付者の状況 助産師：2 名（R6：7 名）</li> <li>・令和 7 年度よりアドバンス助産師取得に係る費用の支援を開始 令和 7 年度利用者：0 名</li> </ul>
	9) 助産師の活躍の場の拡大	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師の活躍の場（院内助産システム等）の拡大に向けて協議をするにあたり、助産師と意見交換（助産師の活躍の場の拡大に向けたワーキング準備会の開催 R7.7.15）</li> <li>・令和 7 年度より高知県看護協会にて、助産師の資質向上にかかる研修を実施（R7：アドバンス助産師育成研修会 3 回/年）</li> </ul>
【取組 4】 県民への支援及び情報発信	10) 妊婦、子育て家庭への支援	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度より分娩にかかる交通費・宿泊費等の支援を拡充</li> <li>・令和 7 年 7 月よりオンライン健康医療相談「小児科オンライン」が開始</li> </ul> <p>【別途説明事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 分娩にかかる交通費・宿泊費等の支援拡充について</li> <li>◎ 「小児科オンライン」について</li> </ul>

- 【別途説明事項】
- ① 周産期医療のあり方検討会での協議内容について (資料 1-3)
  - ② 高知県立あき総合病院の院内助産システム準備状況について (資料 1-4)
  - ③ セミオープンシステムの導入状況について
  - ④ 無痛分娩提供体制構築プロジェクトについて (資料 1-5)
  - ⑤ 分娩にかかる交通費・宿泊費等の支援拡充について (資料 1-6)
  - ⑥ 「小児科オンライン」について (資料 1-7)

## 高知県周産期医療のあり方検討会について

### 1. 高知県周産期医療のあり方検討会設置に係る概要

#### 1) 設置の目的

高知県の周産期を取り巻く現状として、分娩取扱い施設の減少や周産期医療に係る医療従事者の不足、また更なる少子化の進行など、周産期医療にかかる状況は厳しいものとなっている。

限られた医療資源の中で安全で安心な出産ができる環境を提供するため、現状の周産期医療体制及び将来を見据えた周産期医療体制について検討を行う「高知県周産期医療のあり方検討会」（以下、検討会）を設置する。

#### 2) 検討会の位置づけ

本検討会は、高知県周産期医療協議会（以下、協議会）の部会として位置づける（高知県周産期医療協議会設置要綱 第3条の2）。よって、本検討会で協議した事項は、協議会に諮り、承認を得るものとする。

また、本会は、高知県情報公開条例第6条第1項第4号に該当する情報※を取り扱うため、非公開での協議とする。（※法人又は個人事業者の事業活動情報で当該事業者の利益を害する情報）

高知県周産期医療協議会

└──────────┘  
高知県周産期医療のあり方検討会

#### 3) 開催期間

本検討会は、令和6年度～令和8年度を目処に開催する。

令和8年度以降は、協議会にて引き続き検討を行う。ただし、令和8年度以降も検討会にて協議する必要がある場合は、継続について協議する。

#### 4) 検討会の委員

委員は、以下の9名（令和6年度から継続）とする。

所属	氏名	備考
高知医療センター副院長兼地域医療センター長	林 和俊	(委員長)
高知大学医学部附属病院病院長	花崎 和弘	
高知大学医学部特任教授高知地域医療支援センター長（高知県周産期医療協議会会長）	藤枝 幹也	
高知大学医学部産科婦人科学講座准教授	永井 立平	
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター産科長	渡邊 理史	
高知大学医学部小児思春期医学講座助教兼高知大学医学部附属病院周産母子センター副センター長	三浦 紀子	
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター総合周産期母子医療センター副センター長	中田 裕生	
高知県産婦人科医会会長	坂本 康紀	
高知県看護協会助産師職能委員長	嶋岡 暢希	

※必要に応じて委員の交代及びオブザーバーとして委員以外のものの出席を求める場合がある。

### 2. 高知県周産期医療のあり方検討会協議概要（令和7年度～令和8年度）

#### 1) 検討会での協議事項（R7-R8）

「高知県の将来を見据えた周産期医療体制ロードマップ」に沿って、本県の周産期医療体制について協議を行う。

##### <主な協議事項（R7-R8）>

##### （1）ローリスク分娩体制の確保（ロードマップ【取組1】-2)-③)

- ・現状における分娩体制（ローリスク分娩）の確保状況について確認
- ・今後、医師数や分娩施設数が減ることを想定した、ローリスク分娩体制の確保に向けた方向性について検討

##### （2）現状の周産期機能に合わせた医療機関の役割分担の見直し（ロードマップ【取組1】-4)-②)

- ・現状の周産期機能に合わせた医療機関の役割分担について検討

2) 主なスケジュール ※適時、検討事項等見直しを行い、スケジュールの修正を行う。

		あり方検討会	
協議会		議題1) ローリスク分娩体制の確保 議題2) 現状の周産期機能に合わせた医療機関の役割分担の見直し	
令和7年度	10/16 第1回	↑ ・周産期医療体制に関する調査実施	第1回あり方検討会 (R7.9.9開催) 主な協議事項 ・議題1) 調査結果をもとに、現状の分娩体制の確保状況について確認
	3月頃 第2回	↓	第2回あり方検討会 (2月~3月頃) 主な協議事項 (予定) ・議題1) 令和8年度の協議に向けた調査票の作成 ・議題2) 新たな周産期機能について検討
	2~3回 実施予定	↑	第1~3回あり方検討会 主な協議事項 (予定) 議題1) ・現状の分娩体制の確保状況について確認 ・ローリスク分娩体制の確保に向けた方向性の検討・提示 議題2) 新たな周産期機能について検討・提示
令和8年度		↑	

3. 令和7年度第1回高知県周産期医療のあり方検討会 (R7.9.9) での主な協議事項の報告

議題1 「ローリスク分娩体制の確保」に関して、現状 (令和7年度及び令和8年度) の分娩体制の確保状況について調査結果<sup>※1</sup> をもとに、以下内容について確認

※1 令和7年度周産期医療体制に関する調査結果  
調査対象：県内の分娩取扱い施設 (9施設) 及び 妊婦健診のみ取扱い施設 (12施設)  
調査期間：令和7年8月  
回答率：100%

現状 (令和7年度及び令和8年度) の分娩体制の確保状況について

○ 分娩取扱い施設における周産期医療に携わる従事者の状況

令和6年度から現在において、助産師は減少となっているが、産科婦人科医師数及び小児科医師数は、増加となっている。

また、令和7年度・令和8年度においては、分娩取扱い施設の医師数に大きな変動はなく、県内における分娩体制を確保できる見込み。

<分娩取扱い施設における周産期医療に携わる従事者>

	令和6年6月時点	令和7年8月時点
分娩を取扱う産科婦人科医師数	36名	44名 (+8名) <sup>※2</sup>
分娩取扱病院で分娩に関わる小児科医師数	35名	40名 (+5名) <sup>※3</sup>
分娩取扱い施設の助産師数	154名	146名 (-8名)

※令和7年度に採用した専攻医 (※2 産科婦人科：7名、 ※3 小児科医：2名) を含む

○ 分娩取扱い施設の状況

令和7年度・令和8年度において、分娩取扱い施設 (病院6施設、診療所3施設) の全施設が、現行の分娩取扱い体制を維持できる見込のため、県内での分娩受け入れが可能。

<県内の分娩取扱い施設 (9施設) における年間分娩取扱い件数>

対応可能な最大分娩取扱い件数 <sup>※4</sup>	4000件/年
(参考) 令和6年度 分娩取扱い件数 <sup>※5</sup>	3117件/年

※医療政策課調べ (※4:R7.8調べ、※5:R7.3末調べ)

⇒ 令和7年度・8年度において、県内での分娩受け入れが可能であることを確認

# 院内助産システム導入ロードマップ

高知県立あき総合病院

## プロジェクト目標

令和8年4月の院内助産システム稼働を目標に、助産師主導のケア提供体制を構築するため、人材育成・環境整備・制度設計を計画的に推進する。

## アドバンス助産師体制



目標: 9名体制

## 令和6年度: 基盤構築

### 計画策定

- 院内助産システムの検討開始

### 人材確保と育成

- 助産師採用試験（継続）
- 助産師資格取得計画
- 先進施設（隠岐病院ほか）の見学



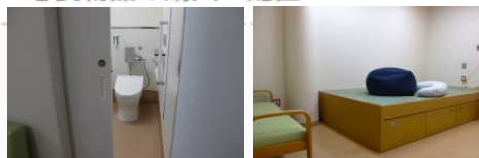
## 令和7年度: 体制・環境整備

### 人材育成と制度設計

- マニュアル整備
- アドバンス助産師資格取得
- 経腹エコー勉強会、産後ケア研修
- 産後ケア実務助産師資格取得
- 自治体へ産後ケアの取り組みを広報

### 環境整備

- 療養環境の整備（畳ベッド導入）
- 必要物品の購入・配置



## 令和8年度: 導入と展開

### システム稼働と人材育成

- R8.4～院内助産システムの正式運用開始
- アドバンス助産師資格取得

### 広報・周知活動

- 院内外への情報発信（広報誌, HP作成）



- 背景(課題)：○全国の無痛分娩実施率は年々上昇しており、東京都の調査では、妊婦の半数以上の方が無痛分娩を希望されるなど、本県でも、無痛分娩に対するニーズは高いものと考えられる。
- R6.10月時点で、ほぼ各県で対応施設が1つはある状況であったが、本県では医師の体制等課題が多く、実施施設がない状態。
- 過去に無痛分娩実施時に妊産婦死亡や後遺障害などの重篤事例が発生しており、国も無痛分娩の安全な管理体制として、産科の麻酔を専門に行う産科麻酔医を中心に、分娩に携わる助産師や看護師などと、チームで管理を行う体制を推奨。

## 本プロジェクトについて

### 1. 目的

安全な無痛分娩の提供体制を整備するため、無痛分娩に関わる医療スタッフに対して、産科麻酔の知識や技術、産科麻酔に関連した病態への対応等を修得する機会を提供し、県内で無痛分娩の提供体制を構築する

## 無痛分娩提供体制構築プロジェクト体制図

### 2. 概要

医師等の養成機関である高知大学の取組を、高知県等が支援する形で実施。

- ①プロジェクトの名称：**無痛分娩提供体制構築プロジェクト**
- ②実施期間：**令和7年4月1日～令和10年3月31日**

### 3. スケジュール

- 令和7年度 無痛分娩の試行と基盤構築
  - ・各種プロトコルやマニュアル等の整備
  - ・7月に特任教授就任（正式にチーム発足）、無痛分娩の試験的な実施
- 令和8年度 本格的な無痛分娩提供体制の稼働（ハイリスク分娩から順次導入）
- 令和9年度 ローリスク分娩への拡大と体制強化
- 令和10年度以降 希望される妊婦に無痛分娩が提供できる体制を目指す

9月30日までに  
計7例実施

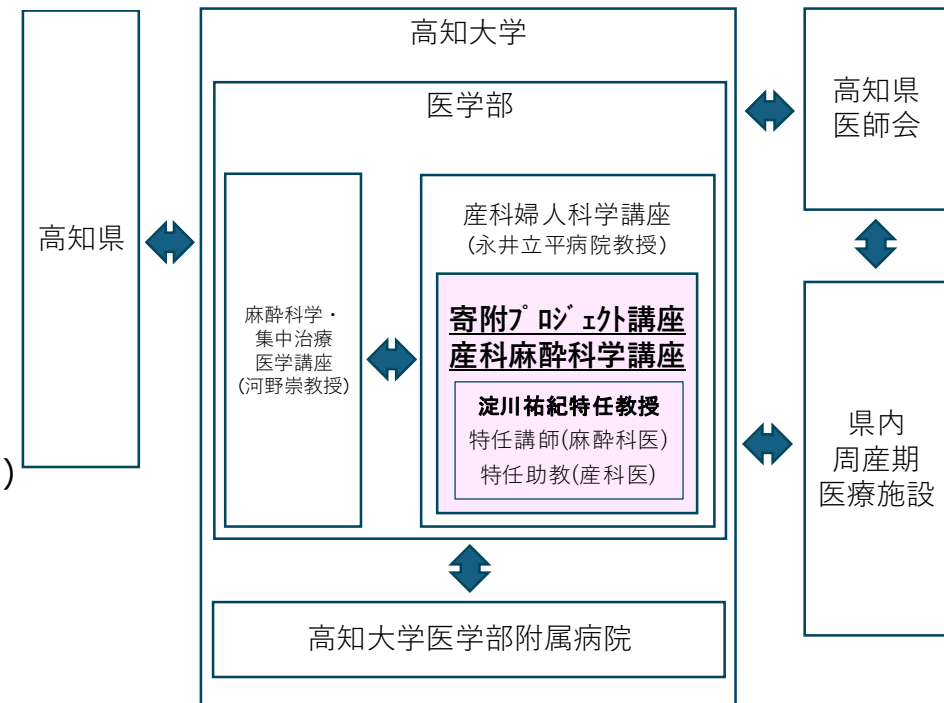
### 4. その他

プロジェクトを実施していく中で、以下の点も検討していくこととしている。

- ①妊婦およびその家族にメリット及びリスクを適切に伝え、正しい理解の下、希望に応じて選択できる環境の構築
- ②産科麻酔科医の導入による周産期医療提供者の労働環境の改善

【行政・支援団体】

【連携・協力機関】



現状と課題

県内の出産を取り巻く現状

◇分娩施設の減少及び地域偏在

- ・少子化や医師の高齢化などから、県内の分娩施設は、**現在9施設**まで減少している。
- ・9施設のうち、6施設が中央保健医療圏に集中しており、**無産科周産期医療圏(高幡圏)**が存在する。
- ・令和6年度には中央保健医療圏の**1病院**が**分娩休止**した。

◇分娩施設までのアクセスが悪化している地域に居住する妊婦の存在

- ・最寄りの分娩施設まで概ね**1時間以上**かかる市町村(役場本庁舎からの距離)は、**9市町村**あり、**出生数は166件**(R5)。
- ・周産期母子医療センターまで概ね**1時間以上**かかる市町村(役場本庁舎からの距離)は、**24市町村**ある。
- ・妊産婦等へのアンケート(R5実施)によると回答した76名のうち、遠いことに関して不安だと回答した者が56名で**73.7%**が不安を感じている。

◇分娩目的で入院する際に伴うリスクの存在

- ・分娩施設から遠方の地域に居住する妊婦は、気象条件や自然災害により通院できなくなる可能性がある。
- ・過去に産科医療施設までの移動中に、救急車内での分娩、自車の中での分娩、自宅での分娩となったケースがある。分娩施設が遠方の場合、特に経産婦では移動中、分娩が急速に進み途中で出産に至ることで、児の命が危険にさらされることも十分に予測できる。

課題

- 分娩施設から遠方の地域に居住している妊婦には、分娩に伴う母児のリスクが常に存在。不安を抱えるとともに、移動にかかる交通費等が経済的負担となっている。
- 分娩施設までの所要時間が30分以上になると、約7割の妊産婦等が不安を感じている。

令和6年度の取り組み

国の「妊婦に対する遠方の分娩取扱施設への交通費及び宿泊費支援事業」をもとに、分娩施設から遠方の地域に居住する妊婦に対し、**分娩施設により近い宿泊施設で分娩待機する場合にかかる宿泊費及び分娩施設等までの移動にかかる交通費を助成。**

- 【事業内容】  
 ≪実施主体≫ 県内市町村  
 ≪対象≫ 自宅から最寄りの分娩取扱施設(又は周産期母子医療センター)まで概ね60分以上を要する者  
 ≪対象経費≫ 分娩待機にかかる宿泊費、分娩施設等までの移動にかかる交通費  
 ≪補助額≫ 宿泊費:14泊を上限とし、実費額(旅費規程に定める宿泊費の額を上限)から自己負担2,000円を除いた額  
 交通費:往復分の8割を補助  
 ≪補助率≫ 国1/2 県1/4 市町村1/4

実績

- 【決算額】 34千円  
 【実施市町村】 東洋町、室戸市、仁淀川町、大月町  
 【助成人数】 分娩待機にかかる宿泊費:0名  
 分娩施設等までの移動にかかる交通費:20名

【分娩施設数の推移】

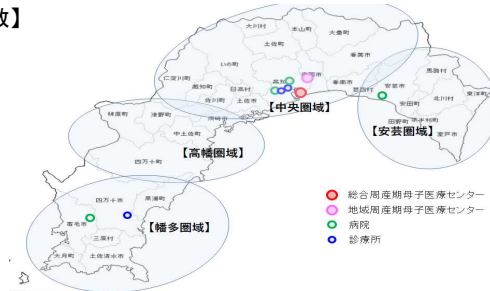
	分娩施設合計数	高知県		安芸圏域		中央圏域		高幡圏域		幡多圏域	
		病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所
H19.10末	21	8	13	1	-	5	12	1	-	1	1
H29.4.1	14	7	7	1	-	5	6	-	-	1	1
R5.10.1	10	7	3	1	-	5	2	-	-	1	1
R6.10.1	9	6	3	1	-	4	2	-	-	1	1

出典: 県医療政策課調べ

【各圏域の分娩施設及びR5年の出生数】

各圏域別出生数 (R5)	
安芸圏域	140人
中央圏域	2,759人
高幡圏域	171人
幡多圏域	310人

出典: 人口動態統計



【妊産婦等へのアンケート結果(一部抜粋)】(N=76名)

	遠いと感じない		遠いと感じる	
	不安だ	不安ではない	不安だ	不安ではない
1時間以上	0名	0名	33名(43.4%)	2名(2.6%)
30分以上1時間未満	0名	12名(15.8%)	23名(30.3%)	2名(2.6%)
30分未満	0名	3名(3.9%)	0名	1名(1.3%)
<b>総計</b>	0名	15名(19.7%)	56名(73.7%)	5名(6.6%)

出典: 医療政策課「出産にかかるアクセス支援についてのアンケート調査」R5

令和7年度の取り組み

(青字: 令和6年度からの拡充)

**分娩施設から遠方の地域に居住する妊婦に対し、令和6年度の事業に県独自の事業内容を追加し、より妊婦が利用しやすいように支援。**また、令和7年度より国の「妊婦に対する遠方の産科医療機関等で受診する妊婦健診時にかかる交通費支援事業」をもとに、**産科医療機関等から遠方の地域に居住する妊婦に対し、妊婦健診時にかかる交通費についても助成。**

- 【事業内容①: 妊婦に対する遠方の分娩取扱施設への交通費及び宿泊費支援事業】  
 ≪実施主体≫ 県内市町村  
 ≪対象≫ 自宅から**実際に分娩を行う施設**まで概ね60分以上の移動時間を要する妊婦  
 ≪対象経費≫ 分娩待機にかかる宿泊費、分娩施設等までの移動にかかる交通費  
 ≪補助額≫ 宿泊費:14泊を上限とし、実費額(旅費規程に定める宿泊費の額を上限)から自己負担2,000円を除いた額を補助  
 ※同行者がいる場合、同行者1名分の宿泊に要した実費額(1泊当たり5,000円を上限)を補助  
 交通費:往復分の8割を補助  
 ≪補助率≫ 国事業分:国1/2 県1/4 市町村1/4 県単事業分:県1/2 市町村1/2
- 【事業内容②: 妊婦に対する遠方の産科医療機関等で受診する妊婦健診時にかかる交通費支援事業】  
 ≪実施主体≫ 県内市町村  
 ≪対象≫ 自宅から最寄りの妊婦健診施設(又は周産期母子医療センター)まで概ね60分以上の移動時間を要する妊婦  
 ≪対象経費≫ 妊婦健診の実施が可能な産科医療機関等までの移動にかかる交通費  
 ≪補助額≫ 往復分の8割を補助(上限14回。妊娠後期以降に対象となる場合は、上限7回)  
 ≪補助率≫ 国1/2 県1/4 市町村1/4

令和7年度 当初予算額: 5,877千円 (国: 3,711千円 - : 2,166千円)

- 事業内容① 3,104千円(国:1,862千円 - :1,242千円) 事業内容② 2,773千円(国:1,849千円 - :924千円)  
 【当初予算額(医療政策課)】 3,104千円(国:1,862千円 - :1,242千円) 【当初予算額(子育て支援課)】 2,773千円(国:1,849千円 - :924千円)  
 【実施予定市町村】 東洋町・室戸市・中芸広域連合・大川村 仁淀川町・中土佐町・宿毛市・大月町 【実施予定市町村】 東洋町・室戸市・中芸広域連合・大豊町・土佐町・大川村・仁淀川町・中土佐町・梶原町・四万十市・大月町

背景(課題)：・県内の小児科医師数は近年横ばい（R6:102名）。一方で、診療所医師の高齢化が進行している状況。

- ・少子化により小児科の減少、地域偏在が続いている。
- ・小児救急体制（急患センターや輪番制）の医師確保が困難になりつつある。
- ・既存の電話相談は対応できない時間帯がある（#8000は20時～翌1時の対応）。

	H22	H28	直近
小児科医師数	100	106	102 (R6)
小児科医師の平均年齢	49.8	52.2	54.8(H30)
小児科医院数	63 (H23)	64 (H29)	48 (R6)

## 事業の概要

### 1. オンライン健康医療相談「小児科オンライン」の開始について（令和7年7月1日から）

- ①サービス対象者：**県内在住の0～15歳の小児をもつ保護者及び子育てに関わる全ての関係者**
  - ②利用時間：**365日24時間**（但し、後述する「夜間相談」は時間制限あり）
  - ③利用方法：会員登録後、利用可能。会員登録には、**高知県限定の「合言葉」**が必要。
  - ④利用料金：**無料**（県にて全額負担。但し、通話料金・通信料金は利用者負担。）
- 事業者は、公募型プロポーザル方式で選定。6月16日株式会社Kids Publicに業務委託。  
市町村担当者等向け事前説明会を3回開催(6/24、26、30)し、令和7年7月1日から開始。

### 2. 利用サービスについて

県民の皆様が安心して子育てができる環境づくりとして、ご自宅等からお手持ちのスマートフォン等でお子様の健康や発達、育児等での疑問等を小児科医に直接相談できる3つのサービスを主に提供。

- ①**いつでも相談**（毎日24時間受付、原則24時間以内返信、ウェブサイトからテキストで相談）
- ②**夜間相談**（平日18時～22時、1枠10分の予約制、LINEのチャット/音声通話/ビデオ電話/電話）
- ③**みんなの相談検索**（毎日24時間検索可能、2万件以上の相談事例から検索）

### 3. 目指す姿

本事業により、お子様の健康や発達、育児等での疑問や不安の早期相談・解消につなげ、「何かあったときに相談できる安心感」の提供と医療機関の負担軽減につながる体制を目指している。

### 4. その他

- ① 9月末時点で、**登録者793名、いつでも相談374件、夜間相談23件、相談検索445件。**
- ②本事業を広報する際、「相談への回答はあくまでも助言であり、診断・治療ではないこと」及び「緊急の場合は、ためらわず119番で救急車を呼ぶこと」も合わせて周知している。
- ③事業効果の分析・確認は、毎月管理画面にて状況把握、年1回住民反響調査により行う。

チラシ等では他の相談ツールも合わせて周知

## 令和6年産婦健康診査事業に関する調査

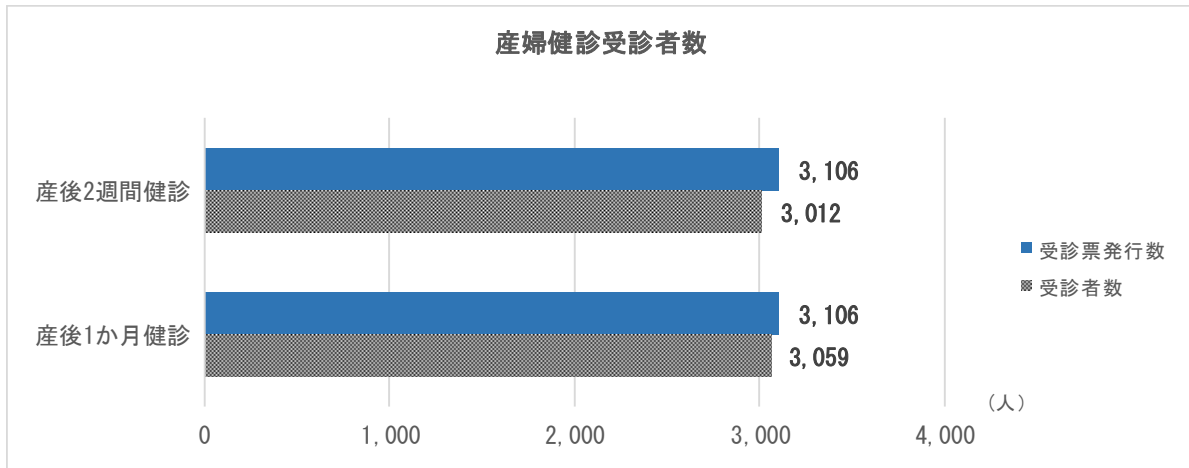
(令和7年8月 子育て支援課調べ)

【目的】県内の産婦がどこに住んでいても一定水準の支援が受けられる体制整備の一環として、  
「高知県産婦健康診査マニュアル(令和2年9月)」に基づく事業評価を行う

【対象】令和6年1月1日～12月31日までに出産をされた方

### 1 産婦健康診査受診者数

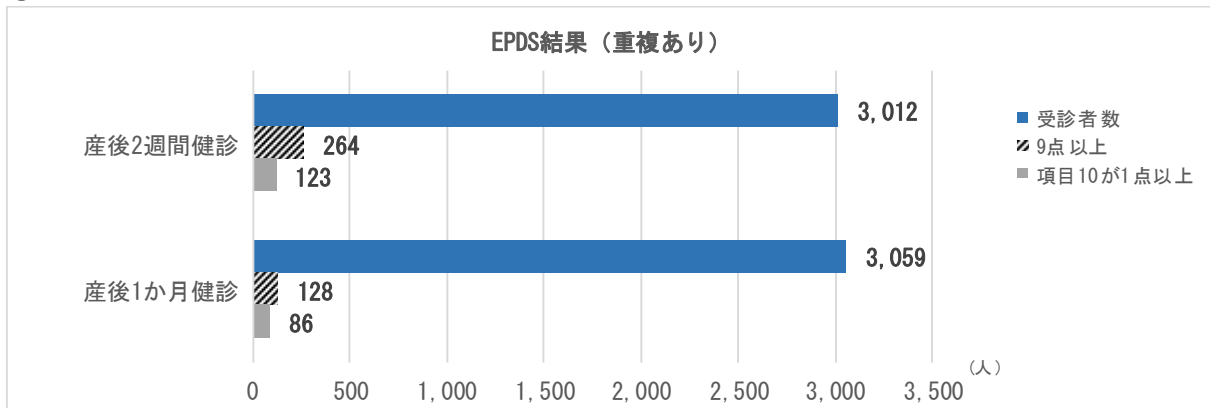
○受診状況(県内10施設と県外施設)



・産後2週間健診の受診者数は3,012人、産後1か月健診の受診者数は3,059人であった。  
受診率は、産後2週間健診は97.0%、産後1か月健診は98.5%であった。  
(参考【R5】産後2週間健診96.4%、1か月健診98.7%  
【R4】産後2週間健診92.7%、1か月健診97.0%)

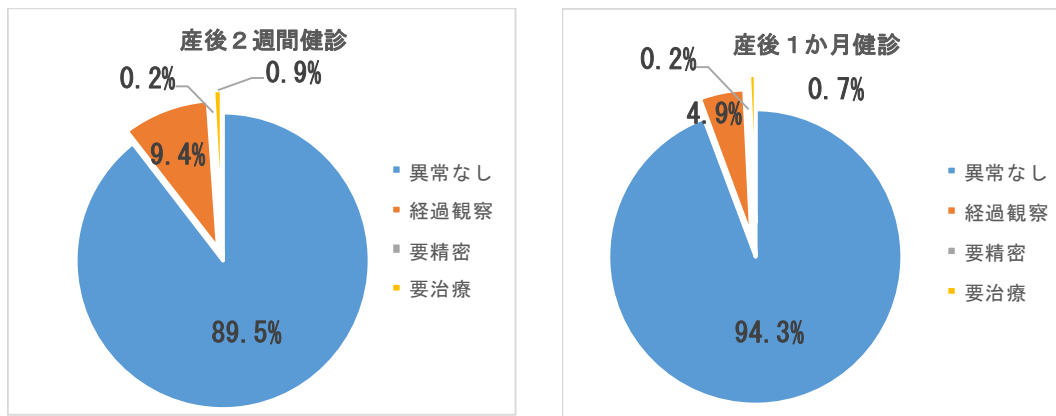
### 2 産婦健康診査結果

①EPDS 結果について(EPDS: エジンバラ産後うつ病質問票)



①EPDSが「9点以上」及び「項目10が1点以上」の割合は、産後2週間健診では12.8%(延387人)、産後1か月健診では7.0%(延214人)となっている。  
(参考【R5】産後2週間健診10.7%、1か月健診6.1%  
【R4】産後2週間健診13%、1か月健診7%)

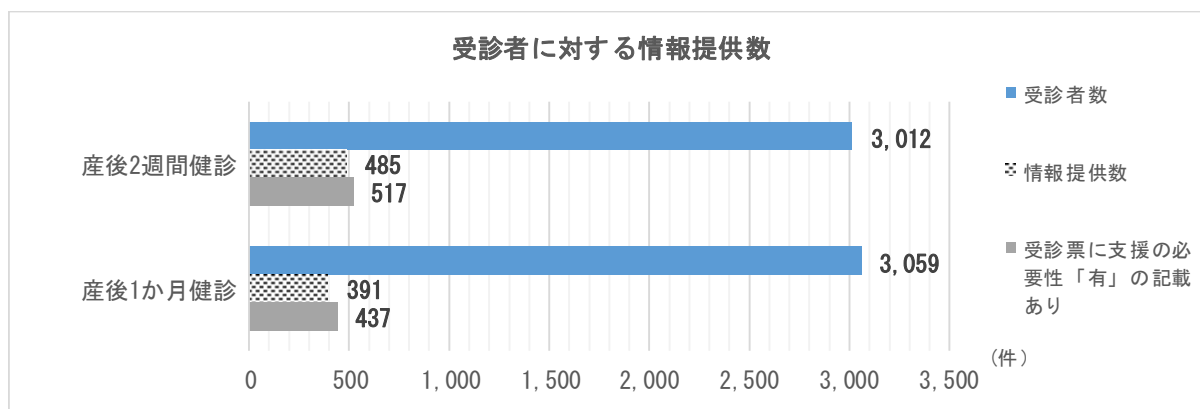
## ②総合判定について



②総合判定の割合は、異常なしは産後2週間健診では89.5%、産後1か月健診では94.3%であり、経過観察はそれぞれ9.4%、4.9%、要精密はそれぞれ0.2%、要治療はそれぞれ0.9%、0.7%であった。※総合判定で要治療となる方は、乳腺炎等を含む身体的な症状も含まれている。

	産後2週間健診				産後1か月健診			
	異常なし	経過観察	要精密	要治療	異常なし	経過観察	要精密	要治療
R6	89.5%	9.4%	0.2%	0.9%	94.3%	4.9%	0.2%	0.7%
R5	86.0%	12.3%	0.2%	1.5%	93.4%	5.8%	0.1%	0.8%
R4	88.3%	10.9%	0.2%	0.6%	95.0%	4.4%	0.1%	0.5%

## ③情報提供について



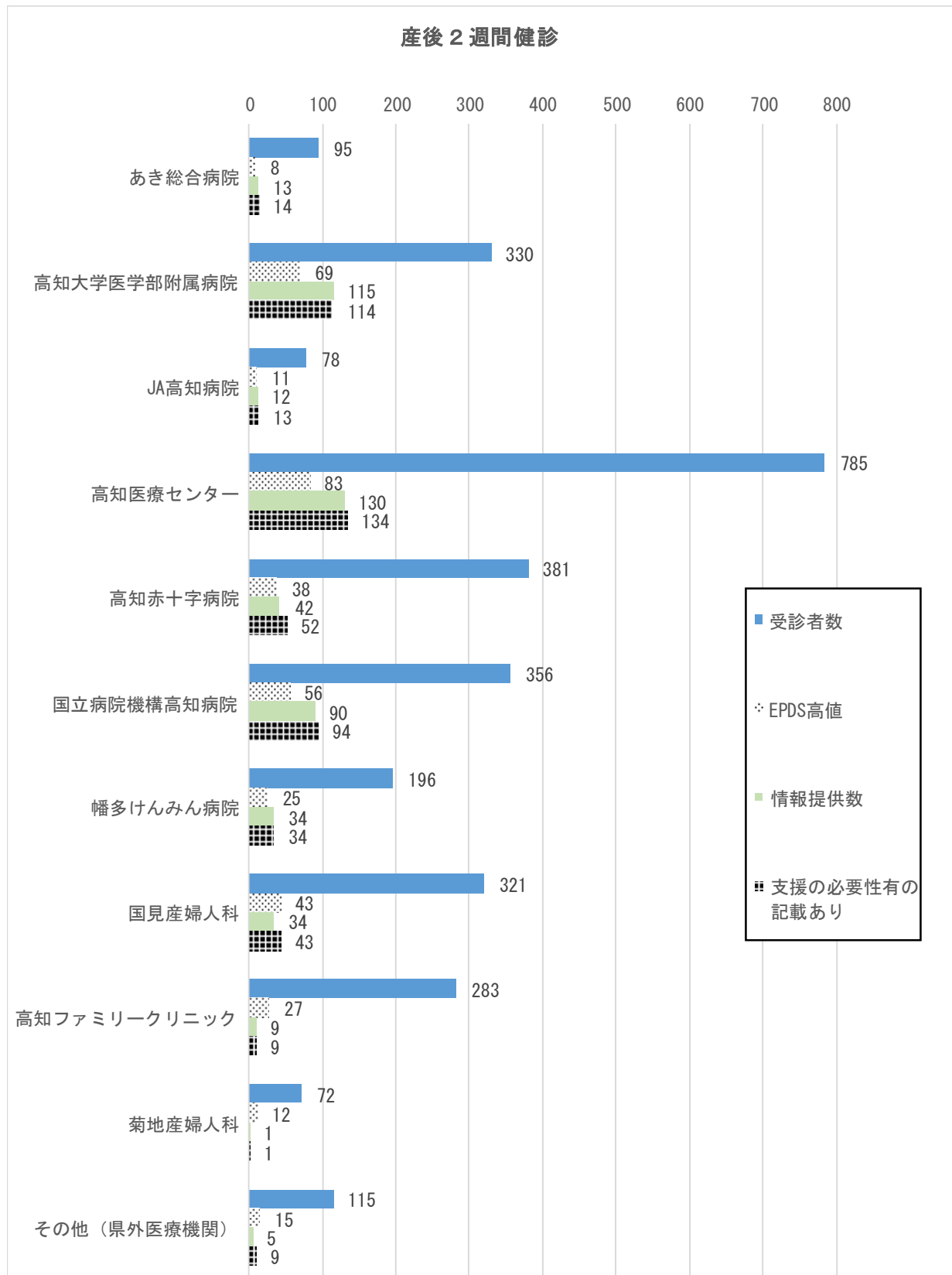
③健診実施施設の受診者数のうち、市町村への情報提供数は、産後2週間健診では16.1%、1か月健診では12.7%であった。約1～2割弱の方が産婦健診後に市町村で何らかの支援の必要があると考えられる。

(参考【R4】産後2週間健診 16.8%、1か月健診 13.1%)

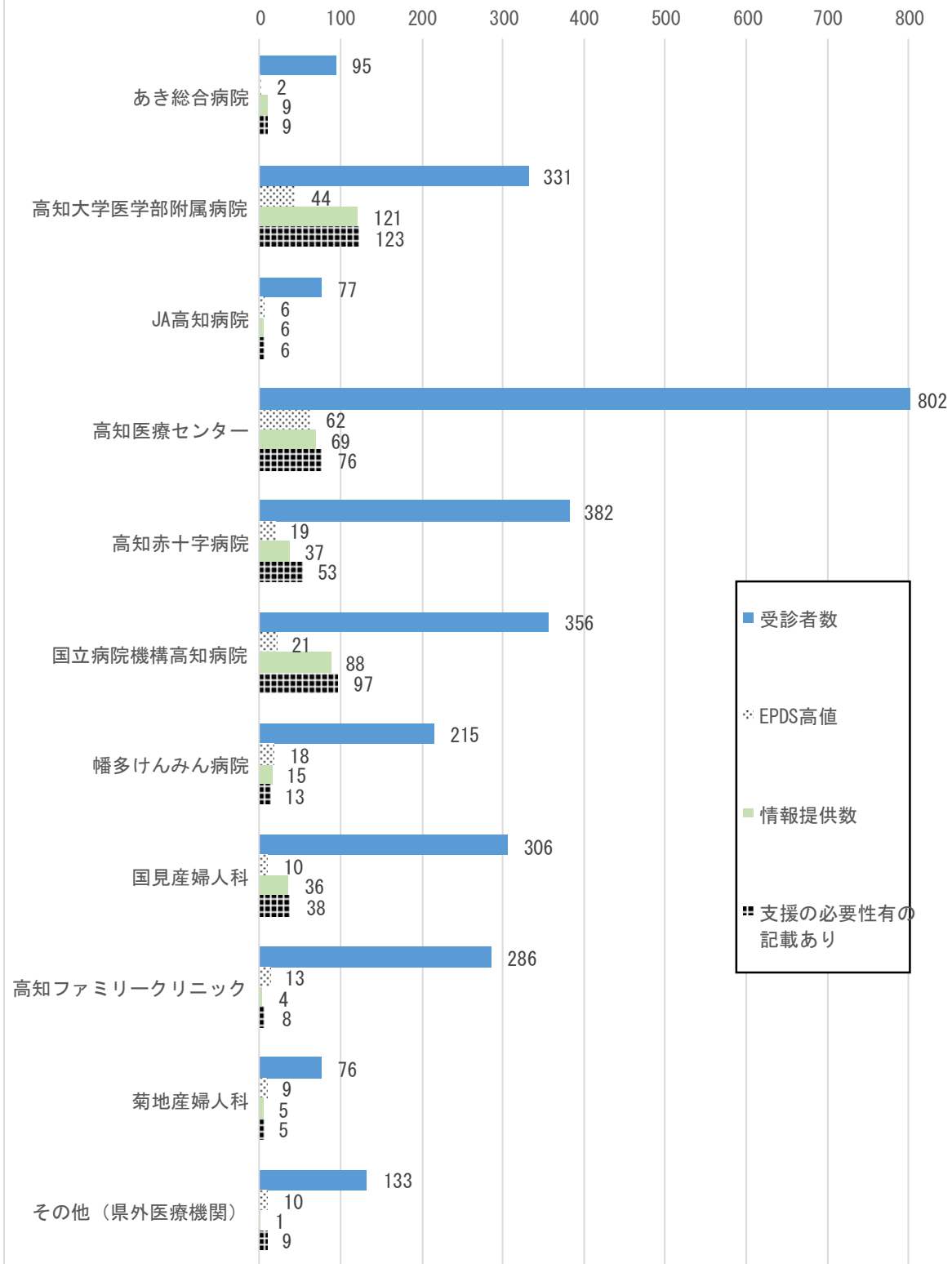
【R3】産後2週間健診 16.8%、1か月健診 13.3%)

健診実施施設からの情報提供数(電話連絡のみも含む)と、約2か月後に市町村に返却される受診票の「市町村からの支援の必要性有」の記載数とは一致していない。

<健診実施施設別情報提供数>



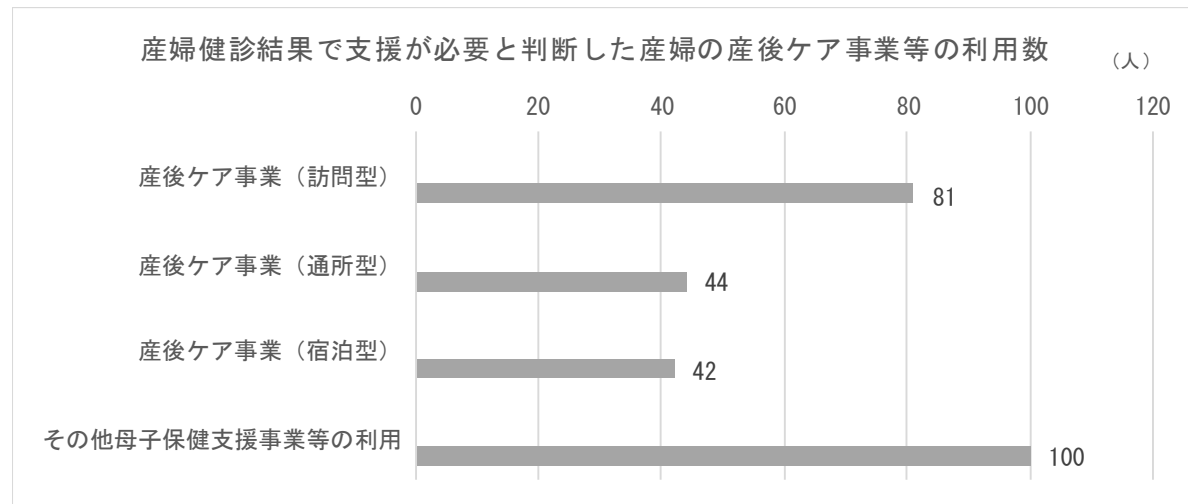
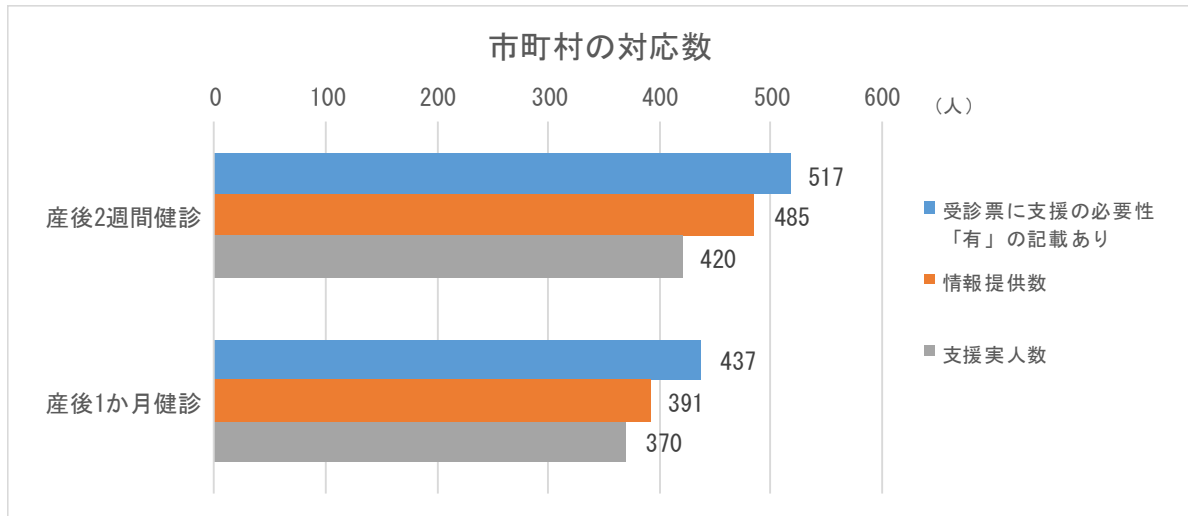
### 産後1か月健診



	産後 2 週間健診				産後 1 か月健診			
	受診者数	EPDS 高値	情報 提供数	情報提供数/ 受診者数	受診者数	EPDS 高値	情報 提供数	情報提供数/ 受診者数
あき総合病院	95	8	13	13.7%	95	2	9	9.5%
高知大学医学部附属病院	330	69	115	34.8%	331	44	121	36.6%
JA 高知病院	78	11	12	15.4%	77	6	6	7.8%
高知医療センター	785	83	130	16.6%	802	62	69	8.6%
高知赤十字病院	381	38	42	11.0%	382	19	37	9.7%
国立病院機構高知病院	356	56	90	25.3%	356	21	88	24.7%
幡多けんみん病院	196	25	34	17.3%	215	18	15	7.0%
国見産婦人科	321	43	34	10.6%	306	10	36	11.8%
高知ファミリークリニック	283	27	9	3.2%	286	13	4	1.4%
菊地産婦人科	72	12	1	1.4%	76	9	5	6.6%
県外	115	15	5	4.3%	133	10	1	0.8%
合計	3,012	387	485	16.1%	3,059	214	391	12.8%

③全受診者数における市町村への情報提供割合は、健診実施施設により差がある。

#### ④市町村の対応について



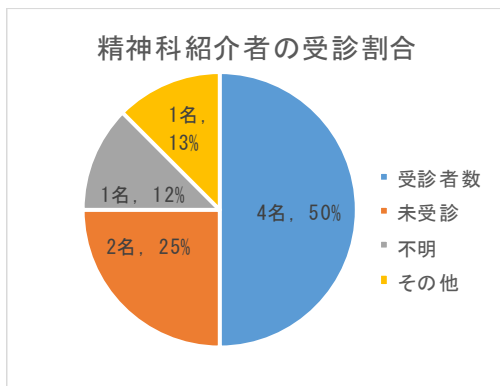
④情報提供があった方には、産後2週間健診後1か月健診までの間に86.6%、1か月健診後に94.6%対応していた。（支援実人数/情報提供数）

（参考【R5】産後2週間健診後80.6%、1か月健診後90.0%

【R4】産後2週間健診後72.5%、1か月健診後90.3%）

- ・対応方法は、対象の状況により市町村の保健師等が電話や訪問を行ったり、産後ケア事業等への母子保健サービスにつなげていた。
- ・情報提供後の対応状況は、市町村により差がある。産婦健診の結果に関わらず、産後1か月以内に全数訪問している市町村もあれば、情報提供があったケースでも対応していないケースがある市町村もあった（最も低い市町村は、産後2週間健診後で76.1%、産後1か月健診後50.0%）。

### ⑤精神科紹介及び受診について



### ○精神科病院受診先（紹介者以外の者も含む）

	病院名	人数
1	愛幸病院	1
2	あき総合病院	1
3	海辺の杜ホスピタル	1
4	高知大学医学部附属病院	7
5	天王診療所	1
6	同仁病院	1
7	幡多けんみん病院	3
8	聖ヶ丘病院	2
9	藤戸病院	3
10	渡川病院	1

- ・産婦健診後に精神科を紹介された方は産後2週間健診で5人、1か月健診で3人の計8人であった。このうち4人が精神科を受診し、2名が未受診、1名が不明となっている。
- ・また、産婦健診では精神科の紹介をされていないが、精神科を受診している産婦が17名いる。
- ・受診をした21名のうち、R6年度末までの経過は、5名が治療終了、16名が治療中であった。
- ・産婦が受診をした医療機関は、10施設である。

## 分析、評価について

**評価の視点①** 健診で、母体の身体的機能の回復や授乳状況、精神状態を把握し、要支援者の抽出が  
できているか

→ 2週間健診の時点で、EPDS 高値(9 点以上及び項目 10 が1 点以上)の方が 12.8%、産後 1 か月時  
の EPDS 高値は 7.0%となっていることから、一定数抽出はできているのではないかと

※参考値: 国の調査における産後1か月までの EPDS が9点以上の褥婦の割合: 9.9%

うつ病既往のない女性における産後うつ病の発病率はおよそ 12%

**評価の視点②** 分娩取扱医療機関から、市町村へ適切に情報提供される等連携体制がとれているか

→ 医療機関から市町村に対しては、R3 年以降、産婦健診受診者のうち 2 週間健診では約 15~  
17%、1か月健診では約 11~13%の方の情報提供がされており、市町村との連携体制が整ってき  
ていると考えられる。

**評価の視点③** 抽出した要支援者が適切な支援に繋がっているか

→ 健診後の対応状況は、市町村によって差はあるものの、令和6年度の県全体の対応割合は産後2  
週間健診後1か月健診までの間に 86.6%、1か月健診後に 94.6%と、高い割合で速やかに対応されて  
いる。また、必要に応じて産後ケア事業等への母子保健サービスへのつなぎも行っている。

精神科紹介者のうち、精神科予約日にキャンセルした方や連絡がつかずに未受診となった方もいる  
が、それらのケースについても、継続的に市町村が状況把握に努めている。

→ こうしたことから、支援の必要な産婦は一定適切な支援につながっていると考えられる。

**その他** 産婦健診の受診率について

- ・ 2週間健診、1か月健診ともに 95%を超えるなど、高い受診率を維持できている。
- ・ ただし、未受診者も一定数あることから、未受診の防止のためには、市町村が母子健康手帳を交付  
する際や、妊婦への訪問や面談等の機会に、妊婦健康診査と併せて、産婦健診の受診勧奨を続け  
ることと、分娩取扱施設での産婦健診受診の重要性の啓発が必要であるため、引き続き、出産後退  
院時に県作成のリーフレット等を活用し、産後 2 週間と 1 か月の産婦健診受診について周知・啓発  
をお願いしたい。

**分娩取扱施設へのお願い**

◇産婦健診受診率向上にむけて(再掲)

・ 出産後退院時に県作成のリーフレット等を活用し、産後 2 週間と 1 か月の産婦健診受診について周知・  
啓発をお願いします

◇情報提供をお願いしたい方

・ EPDS の点数が高い方(9 点以上、項目 10 が1 点以上)、「市町村の支援の必要性有」に該当する方

◇情報提供いただく際のお願い

・ 情報提供をいただく際には、EPDS の点数に加え、具体的な聞き取り内容等の記載をできるだけお願い  
します

・ 市町村に情報提供した場合、市町村の「支援の必要性有」に該当すると思われるため、受診票への記載  
もお願いします

<子ども・子育て支援交付金> 令和7年度予算案 2,138億円の内数（2,074億円の内数）※()内は前年度当初予算額

### 事業の目的

- 出産後1年以内の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を行う産後ケア事業について、少子化の状況を踏まえ、安心・安全な子育て環境を整えるため、法定化により市町村の努力義務となった当事業のユニバーサル化を目指す。こども家庭センターや伴走型相談支援との連携により、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援の提供を行う。

※ 「産後ケア事業」は、母子保健法の一部を改正する法律（令和元年法律第69号）により、市町村の努力義務として規定された（令和3年4月1日施行）

### 事業の概要

#### ◆ 対象者

産後ケアを必要とする者

#### ◆ 内容

出産後1年以内の母子に対して心身のケアや育児のサポート等きめ細かい支援を実施する。

#### ◆ 実施方法・実施場所等

- (1) 「宿泊型」・・・病院、助産所等の空きベッドの活用等により、宿泊による休養の機会の提供等を実施（利用期間は原則7日以内）  
 (2) 「デイサービス型」・・・個別・集団で支援を行える施設において、日中、来所した利用者に対し実施  
 (3) 「アウトリーチ型」・・・実施担当者が利用者の自宅に赴き実施

#### ◆ 実施担当者

事業内容に応じて助産師、保健師又は看護師等の担当者を配置。※ 宿泊型を行う場合には、24時間体制で1名以上の助産師、保健師又は看護師の配置が条件

### 実施主体等

【実施主体】市町村（特別区を含む）

【補助率】国1/2、都道府県1/4、市町村1/4

※都道府県負担の導入（R6以前は、国1/2、市町村1/2）

【補助単価】

- (1) デイサービス・アウトリーチ型 1施設あたり月額 1,788,000円  
 (2) 宿泊型 1施設あたり月額 2,605,700円  
 (3) ①住民税非課税世帯に対する利用料減免（R4～） 1回あたり 5,000円  
 ②上記①以外の世帯に対する利用料減免（R5～） 1回あたり 2,500円  
 (4) 24時間365日受入体制整備加算 1施設あたり年額 2,943,600円  
 (5) 支援の必要性の高い利用者の受け入れ加算（R6～） 1人あたり日額 7,000円  
 (6) 兄弟や生後4か月以降の児を受け入れる施設への加算【拡充】  
 1施設あたり月額 174,200円  
 (7) 宿泊型について、夜間に職員配置を2名以上に行っている施設への加算【拡充】  
 1施設あたり月額 244,600円

### 事業の実績



※ 実施自治体数は変更交付決定ベース

※ 産婦の利用率の算出方法  
 宿泊型・デイサービス型・アウトリーチ型の各利用実人数の合計 / 分娩件数

# 高知県の産後ケア事業の状況

【産後ケア事業】出産後1年を経過しない母子に対して、助産師等が心身のケアや育児サポートを行い、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を行うもの。（法定事業：母子保健法上の市町村の実施努力義務）

## ●実施主体：市町村

### 現状

【利用者の状況】 ■ 出生数 3,108 (R6)

	R2	R3	R4	R5	R6 (暫定値)
利用者数	285	392	553	1,048	1,515
利用率	7.0%	9.6%	14.9%	31.0%	48.7%

※利用者数：類型ごとの実人数の合計値

【事業実施市町村数】

	R3	R4	R5	R6	R7 (予定含む)
訪問型	34	34	34	33 ※	33 ※
通所型	4	8	12	20	32
宿泊型	8	12	16	24	32

※残り1市町村は類似事業にて実施

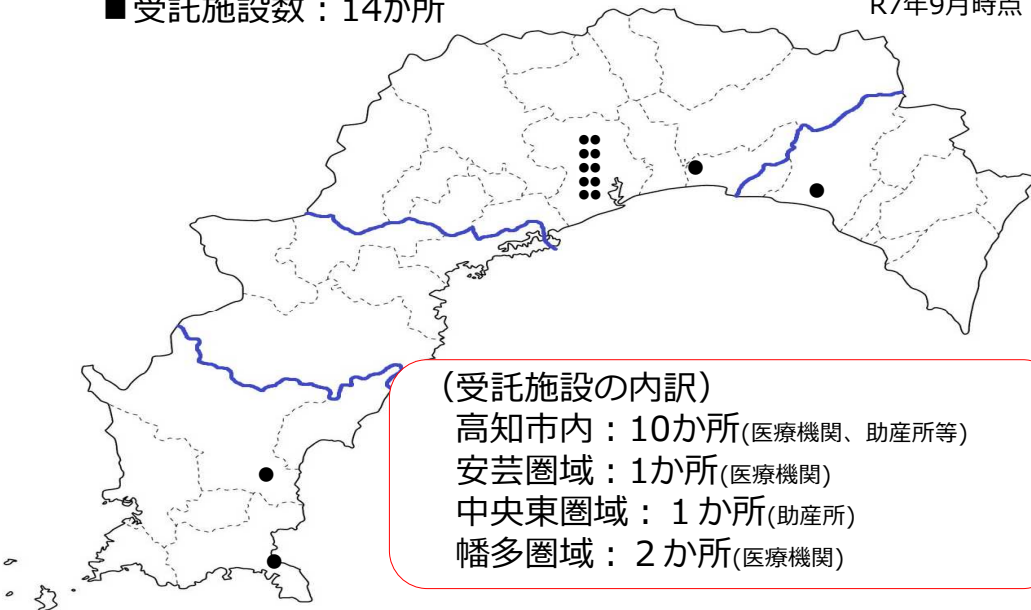
### 【産後ケア事業の委託先】

〈訪問型〉高知県助産師会、個人助産師等に委託

〈通所型・宿泊型〉医療機関、助産所等に委託

■ 受託施設数：14か所

R7年9月時点



#### (受託施設の内訳)

- 高知市内：10か所(医療機関、助産所等)
- 安芸圏域：1か所(医療機関)
- 中央東圏域：1か所(助産所)
- 幡多圏域：2か所(医療機関)

### R6年度 国費申請 (R6.7)

#### 高知市内

- ・はぐあす
- ・浅井産婦人科内科
- ・内田産婦人科
- ・アニタ助産院
- ・小梅助産院
- ・助産院はぐはぐ
- ・このは助産院
- ・高知赤十字病院

#### 安芸圏域

- ・あき総合病院

#### 幡多圏域

- ・渭南病院

県外（愛媛県）3箇所

### R7年度 県調査 (R7.9)

#### 高知市内

- ・はぐあす
- ・浅井産婦人科内科
- ・高知赤十字病院
- ・アニタ助産院
- ・小梅助産院
- ・助産院はぐはぐ
- ・このは助産院
- ・国立高知病院
- ・産前産後ケアの nyuwa
- ・SORA助産院

#### 安芸圏域

- ・あき総合病院

#### 中央東圏域

- ・ゆいま〜る

#### 幡多圏域

- ・渭南病院
- ・菊地産婦人科

県外（愛媛県）3箇所

※通所型については、委託せず直営で実施している市町村もあり

## 高知県産後ケア事業推進連絡会 概要

### 目的

市町村における産後ケア事業実施上の課題についての情報提供や協議等を通して、産後ケア事業の推進を図り、産後も安心して子育てができる支援体制を確保する

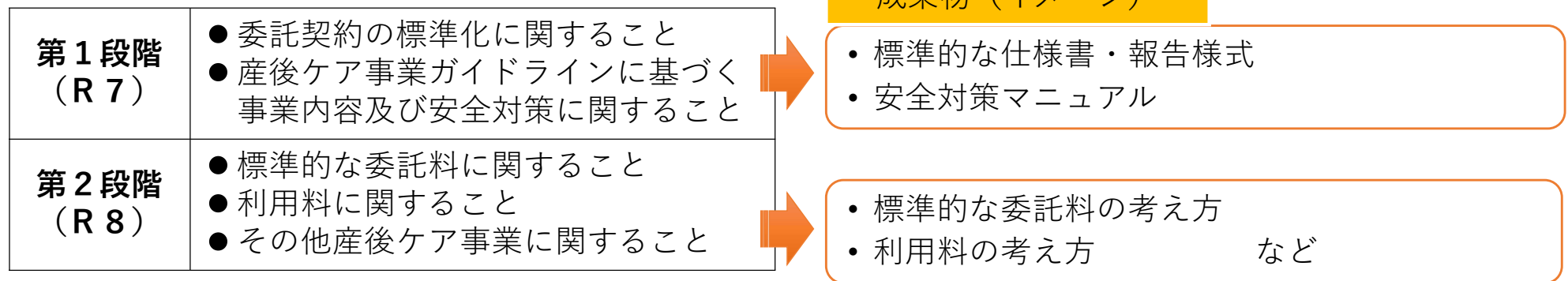
### 構成員

- (1) 市町村代表（市町村保健衛生職員協議会、高知市、各ブロックの代表市町村）
- (2) 有識者
- (3) 事業者代表

※ オブザーバー：高知県立大学、各福祉保健所

### R7の取組

- 委託元の市町村のみで構成する準備会から開始し、段階的に協議を行う
- 11月を目処に第1回目の全体会を開催



現状と課題

県内の出産をとりまく状況

- ◇出産できる施設の高知市とその周辺への集中
  - ・県内の分娩を取扱う施設は9施設（6病院、3診療所）と限られており、このうち6施設が央保健医療圏に集中している※分娩取扱い休止施設除く
  - ・安芸保健医療圏（1病院）、高幡保健医療圏（0）、幡多保健医療圏（1病院・1診療所）
  - ・特に経産婦では分娩が急速に進んだ場合等に自宅分娩や救急車等での車中分娩により、母子の命も危険にさらされている

- ◇救急隊員の分娩徴候への対応力の強化
  - ・救急車内等で陣痛や出血、破水等の妊産婦への対応が必要



課題

- 居住地に近い所に分娩取扱い施設がない圏域では、高知市とその周辺の施設で妊婦健診、出産を行っている
- 産科医療施設から離れた地域に居住している妊婦には、産科症状の際にすぐに対応できる医療機関までのアクセスが遠く、心理的にも不安を抱えている
- 産科疾患の搬送や救急対応は全救急搬送においても少数の事例であり、救急救命士等においても、対応に不安を抱えている方もいる

総合周産期母子医療センター（高知医療センター）が独自に実施したBLSO研修（H28）受講者数と県から高知医療センターに委託して実施したこれまでのBLSO研修受講者数

職種	H28	H29		H30	R元		R5	R6	計
		10/1	1/21	2/16	9/29	2/9			
救急救命士	22名	15名	16名	17名	18名	17名	17名	19名	141名
救急医・助産師等	13名	3名	2名	1名	0名	0名	1名	5名	25名
合計	35名	18名	18名	18名	18名	17名	18名	24名	166名

R2～4年度：新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

BLSOとは？

- ◆病院前の産科救急的対応をはじめ、日頃は産科医療に関与していないが、車中分娩や病院外での妊産婦救急に突然遭遇する可能性がある救急救命士や救急医、家庭医、看護師等の方々を対象とした実践的なプログラム〈研修内容〉
  - ・妊婦の評価方法（週数の推定、分娩経過の観察、妊娠中の女性の出血や腹痛の評価など）、分娩介助、新生児蘇生、妊婦蘇生等についての講義と実技等
  - ・1日間 ※1グループ6名
  - ・筆記試験、マネキンによる実技試験

※この研修については、NPO法人周産期医療支援機構が、ALS0-Japan事業として運営を実施

令和6年度の取り組み実績

- ◆研修実施機関：高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
- ◆開催日時：令和6年11月2日（土）9:00～17:00
- ◆開催内容：BLSOプロバイダーコース
- ◆受講者：24名 <職種内訳> 救急救命士19名、医師2名、看護師1名、その他2名

令和7年度の取り組み予定

- ◆研修実施機関：①高知県立幡多けんみん病院  
②高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
- ◆開催予定日時：①令和7年11月8日（土）  
②令和8年2月28日（土）
- ◆開催内容：BLSOプロバイダーコース
- ◆受講予定者：①② 各12名（計24名）

【参考】

妊産婦救急救命基礎研修受講者のアンケート結果

※令和6年度受講者を対象に受講後アンケート実施。回答者21名（回答率88%）。

☆研修に対する満足度

- ①満足 18名（86%）
- ②やや満足 3名（14%）
- ③ふつう 0名（0%）
- ④やや不満 0名（0%）
- ⑤不満 0名（0%）

☆これまで妊産婦の搬送にかかわったことがあるか

- ①ある 11名（52%）
- ②ない 10名（48%）

☆主な研修受講動機

- ・症例が少なく、経験がないため
- ・日々の救急活動の中で不安を感じていたため
- ・産科対応病院まで1時間以上かかるため、知識・技術を身につけ、対応できるようになるため
- ・緊急度、重症度の判断を速く確実にできるようにするため
- ・所属の医療機関には産婦人科・小児科がなく、いざというときに対応できるスキルを身につけるため

☆日々の業務において、当該研修を受講する必要性を感じるか

- ①感じる 21名（100%）
- ②感じない 0名（0%）

<感じる回答した主な理由>

- ・症例が少ないからこそ研修等で身につける必要がある
- ・学ぶ機会が少ないため
- ・知っていることで助かる命があるため
- ・医療機関までの搬送に長時間を要するため



【令和 7 年度】

産科医療施設における入力訓練（EMIS・PEACE）について

7 高医政第 491 号

令和 7 年 7 月 9 日

各分娩取扱い施設長 様

高知県健康政策部医療政策課長

周産期医療における災害対策に関する「大規模災害対策情報システム（PEACE）」  
入力訓練の実施について（依頼）

日頃は、本県の周産期・母子保健行政の推進に対して、格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

災害時には、電話等の連絡手段が機能しなくなり、必要な支援の要請や患者の受入れ体制等の情報が共有できず、現場が混乱する恐れがあります。

標記システムにつきましては、平成 29 年 5 月より運用が開始され、日本産科婦人科学会より活用依頼があったところですが、各医療機関の周産期医療情報を共有し、災害時周産期リエゾンによる医療資源の調整に活用するためにも重要な情報共有ツールとなることから、各施設におかれましては当該システムを活用していただきますようお願いいたします。

このたび、当該システムの活用を進めるにあたり、昨年度に引き続き、下記のとおり入力訓練を実施することといたしました。

ご多用のこととは存じますが、本訓練へのご参加をお願いいたします。

## 記

- |   |         |   |                               |
|---|---------|---|-------------------------------|
| 1 | 日 時     | 第 1 回：令和 7 年 7 月 17 日（木）<br>第 2 回：令和 7 年 10 月 14 日（火）<br>第 3 回：令和 8 年 1 月 14 日（水）         | } 9:00～17:00<br>※各自対応可能な時間に実施 |
| 2 | 訓練内容    | 大規模災害対策情報システム（PEACE）へのログイン及び被災状況の入力   |                               |
| 3 | 留意事項    | 訓練当日は何度入力しても結構ですので、ログイン可能な方は入力訓練を行うようにしてください。   |                               |
| 4 | 前回の訓練結果 | 分娩取扱い医療機関 9 施設中 8 施設参加（令和 6 年 12 月 11 日実施）  |                               |
| 5 | その他     | 令和 7 年 6 月 20 日付け 7 高保政第 389 号にて県保健政策課が依頼している <u>広域災害救急医療情報システム（EMIS）</u> 入力訓練と同時実施となります。 |                               |

【担当】 〒780-8570 高知市丸ノ内 1 丁目 2 番 20 号  
高知県健康政策部 医療政策課  
地域医療担当 下田  
TEL：088-823-9625 FAX：088-823-9137

【令和元年度～令和7年度 産科医療施設における入力訓練参加状況(EMIS・日産婦学会システム)】(訓練開始:平成20年度より)

	施設名	EMIS																														
		令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度												
		第1回 (6/20)	第2回 (9/20)	第3回 (12/20)	第1回 (6/18)	第2回 (9/18)	第3回 (2/18)	第1回 (10/12)	第2回 (12/15)	第3回	第1回 (6/7)	第2回 (10/7)	第3回 (12/6)	第1回 (6/12)	第2回 (9/13)	第3回 (12/12)	第1回 (6/13)	第2回 (9/17)	第3回 (12/11)	第1回 (7/17)	第2回 (10/14)	第3回 (1/14)										
分娩を取り扱う病院・診療所	1 高知県立あき総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	2 高知大学医学部附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	3 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	4 高知赤十字病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	5 独立行政法人国立病院機構高知病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	6 高知県立幡多けんみん病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	7 J A高知病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	8 国見産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	9 高知ファミリークリニック	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	10 菊地産婦人科医院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	11 田村産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	12 浅井産婦人科・内科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	13 高須どい産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	14 内田産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	15 たにむら産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
妊婦健診のみを取り扱う病院・診療所	1 愛宕病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	2 くぼかわ病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	3 佐川町高北国民健康保険病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	4 たにむら産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	5 内田産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	6 田村産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	7 浅井産婦人科・内科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	8 高須どい産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	9 梅原産科婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	10 にこにこレディースクリニック	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	11 レディースクリニックコスモス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	12 北村産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	13 けやまクリニック(旧:毛山病院)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	14 はまだ産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	15 土佐市民病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	16 山崎病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	17 三愛病院(～R元.12月末)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
	18 藤井クリニック(～R2.3月末)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
参加施設数 /参加対象施設数 (入力率%)	分娩取扱い施設	14/16	88%	13/14	93%	13/13	100%	13/13	100%	11/13	85%	13/13	100%	13/13	100%	13/13	100%	10/10	100%	10/10	100%	10/10	100%	10/10	100%	9/9	100%	8/9	89%	7/9	78%	
	〈内訳〉 病院	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	6/7	86%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	6/6	100%	6/6	100%	6/6	100%	
	診療所	7/9	78%	6/7	86%	6/6	100%	6/6	100%	5/6	83%	6/6	100%	6/6	100%	6/6	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	2/3	67%	1/3	33%	
妊婦健診のみ取扱い施設	6/9	58%	7/11	64%	11/12	92%	10/10	100%	7/10	70%	10/10	100%	11/12	92%	10/12	83%	12/13	92%	13/13	100%	12/13	92%	12/13	92%	13/13	100%	12/14	86%	12/14	86%	13/14	93%

【令和元年度～令和7年度 産科医療施設における入力訓練参加状況(EMIS・日産婦学会システム)】

施設名		大規模災害対策情報システム(PEACE)																																										
		令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度																								
		第1回 (6/20)	第2回 (9/20)	第3回 (12/20)	第1回 (6/18)	第2回 (9/18)	第3回 (2/18)	第1回 (6/7)	第2回 (9/7)	第3回 (12/6)	第1回 (6/7)	第2回 (10/7)	第3回 (12/6)	第1回 (6/12)	第2回 (9/13)	第3回 (12/12)	第1回 (6/13)	第2回 (9/17)	第3回 (12/11)	第1回 (7/17)	第2回 (10/14)	第3回 (1/14)																						
分娩を取り扱う病院・診療所	1 高知県立あき総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	2 高知大学医学部附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	3 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	4 高知赤十字病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	5 独立行政法人国立病院機構高知病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	6 高知県立幡多けんみん病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	7 J A高知病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	8 国見産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	9 高知ファミリークリニック	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	10 菊地産婦人科医院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	11 田村産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	12 浅井産婦人科・内科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	13 高須どい産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	14 内田産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
	15 たにむら産婦人科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																						
妊婦健診のみを取り扱う病院・診療所	1 愛宕病院																																											
	2 くまかわ病院																																											
	3 佐川町高北国民健康保険病院																																											
	4 たにむら産婦人科																																											
	5 内田産婦人科			●																																								
	6 田村産婦人科												●	●																														
	7 浅井産婦人科・内科													●																														
	8 高須どい産婦人科																																											
	9 梅原産科婦人科																																											
	10 にこにこレディースクリニック																																											
	11 レディースクリニックコスモス																																											
	12 北村産婦人科																																											
	13 けやまクリニック (旧:毛山病院)																																											
	14 はまだ産婦人科																																											
	15 土佐市民病院																																											
	16 山崎病院																																											
	17 三愛病院 (～R元.12月末)																																											
	18 藤井クリニック (～R2.3月末)																																											
参加施設数 /参加対象施設数 (入力率(%))	分娩取扱い施設		12/14	86%	13/14	93%	13/13	100%	13/13	100%	13/13	100%	12/13	92%	11/13	85%	12/13	92%					9/12	75%	12/12	100%	12/12	100%	10/10	100%	10/10	100%	8/10	80%	9/10	90%	9/10	90%	8/9	88%	9/9	100%	8/9	89%
	〈内訳〉	病院	6/7	86%	6/7	86%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	6/7	86%	5/7	71%	7/7	100%					5/7	71%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	7/7	100%	5/7	71%	6/7	86%	6/7	86%	5/6	83%	6/6	100%	5/6	83%
		診療所	6/7	86%	7/7	100%	6/6	100%	6/6	100%	6/6	100%	6/6	100%	6/6	100%	5/6	83%					4/5	80%	5/5	100%	5/5	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%	3/3	100%
妊婦健診のみ取扱い施設						1/1	100%																	1/1		2/2																		

## 高知県周産期医療関係者研修事業

## 令和7年度 高知県周産期医療講演会

## 演題

# 令和6年能登半島地震における 石川県小児周産期リエゾンの活動 ～伝えたいこと、忘れてはいけないこと～

石川県立中央病院総合母子医療センター 新生児科 北野 裕之 先生

## \*発行する単位\*

## &lt;産婦人科&gt;

①日本専門医機構学術集会参加(1単位)、日本専門医機構の共通講習 災害医療(1単位)を発行いたします。

JSOGカードもしくは、JSOGアプリ内のデジタル会員証を忘れずにお持ちください。

・専門医機構認定単位に合致するかは、機構審査まで不明であることを予めご承認ください。

・途中入退出等で受講時間が不十分な場合、受講単位を発行できない可能性もありますのでご注意ください。

\*システム運営上、受講単位発行に正確を期すため、ご本人確認をさせていただくことがありますので、ご了承ください。

\*単位は、会期終了後、2週間程度で自動的に付与されます。

②日本産婦人科医会研修参加証(医会シール)を発行いたします。

## &lt;小児科&gt;

日本専門医機構の共通講習について、現在単位を申請中(審査中)です。

※審査結果は9月下旬頃となっておりますが、当院から結果のお知らせ等は予定しておりません。確認が必要な方は当院までお問い合わせください。

2025年

# 10/19(日)

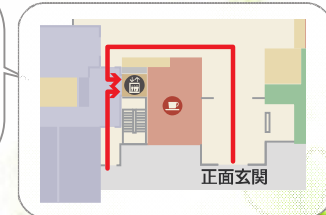
参加:無料  
申込:要  
対象:医療関係者

## 10:00~12:00

高知医療センター 2階

くろしおホール

エレベーターを  
2Fで降りた  
正面が受付です



左記のアドレスまたはQRコードからお申込みください

<https://forms.gle/N8FMEomkDnapiwmn8>

申込締切:10/10(金)

※事前申込が間に合わなかった場合、当日参加も可能です。

◆主催:高知県/高知医療センター 総合周産期母子医療センター

◆お問合せ:高知医療センター 事務局 経営企画課 石川

TEL.088-837-3000(代)

無料!!

資料3 - 4

# 院内助産開始のヒント

～妊産婦サービス向上のために  
助産師ができること～

ねらい

1. 院内助産システムの構築及びそのプロセスを知る。
2. 院内助産で出産した妊産婦の体験を知る
3. 院内助産体制整備における助産スタッフの実践能力強化や動機付けに向けた取り組みの実際を知る
4. 日頃の助産業務を振り返り、院内助産システム整備における自施設の課題と方策を見出す

日時 : 2025年10月25日(土) 9:30～15:30  
場所 : 高知県看護協会 集合研修  
講師 : 諏訪中央病院 小児産科女性病棟  
看護師長 藤田由理 氏  
助産師 佐藤真希 氏

対象 : 助産師 看護管理者 医師等

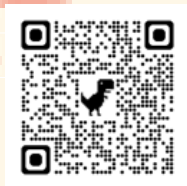
申込期間 : 8月25日～~~10月16日~~ 10月20日まで延長

申込方法 : 高知県看護協会 HP Kanganoto

▶ 「J母性・小児看護」

▶ J9 「院内助産システムの構築と体制整備

～医師・妊産婦・助産師が協働し、安心・安全に  
出産できる体制を目指して」



★開業助産師さんもぜひ!!

高知県内のどこにいても  
安心してお産や育児が  
できる環境を  
整えましょう♪



2025/9/16

# 周産期統計資料(2024)

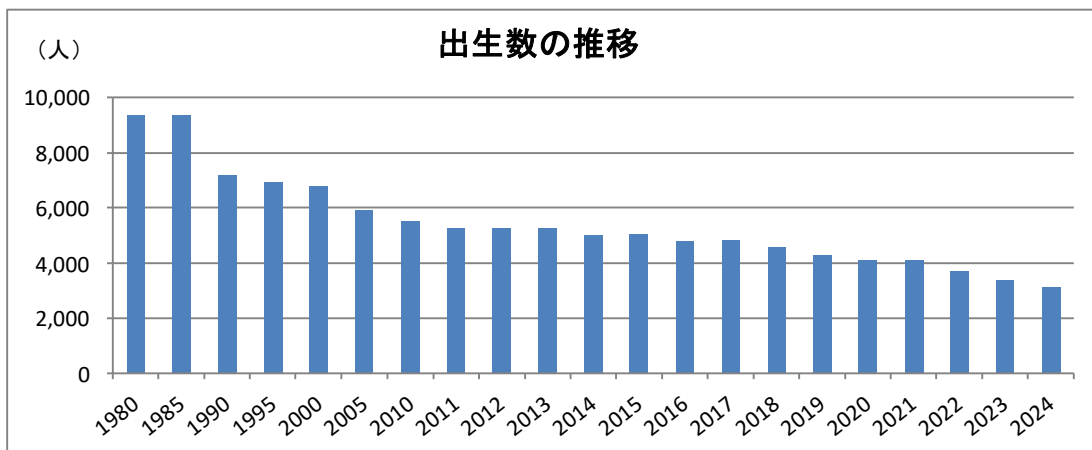
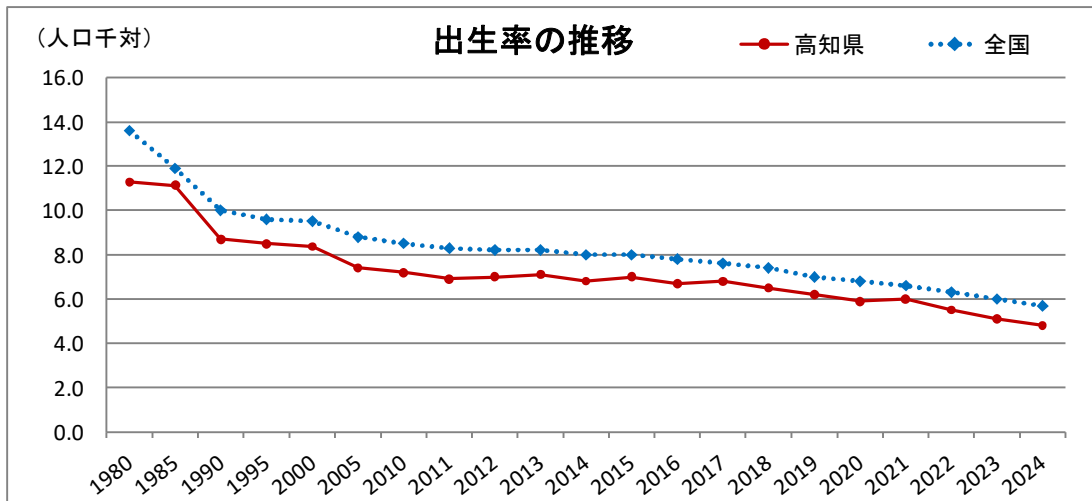
(令和6年確定値)  
※一部確定値更新

高知県健康政策部医療政策課

## 出生数・低出生体重児数の推移

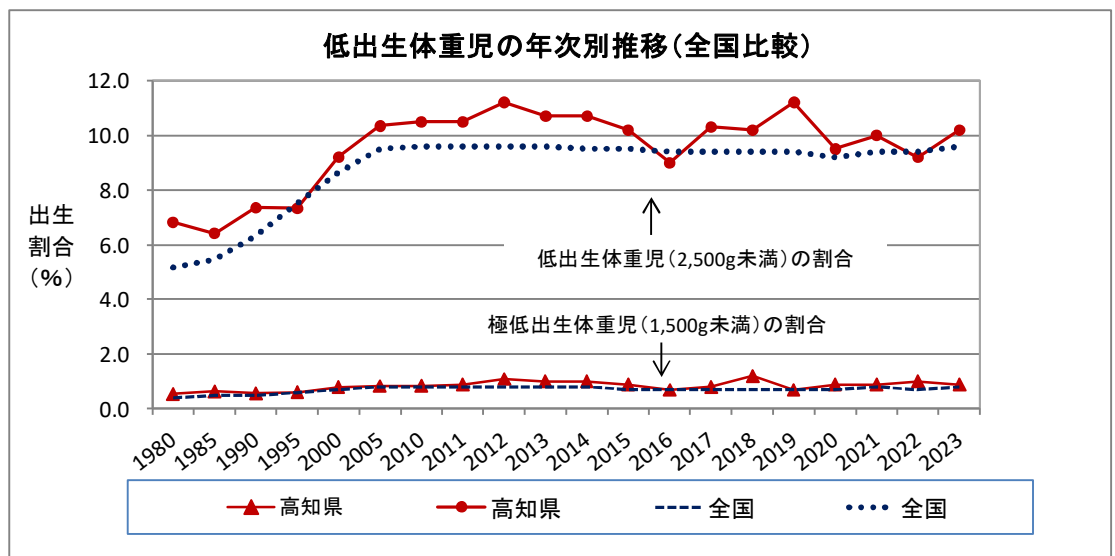
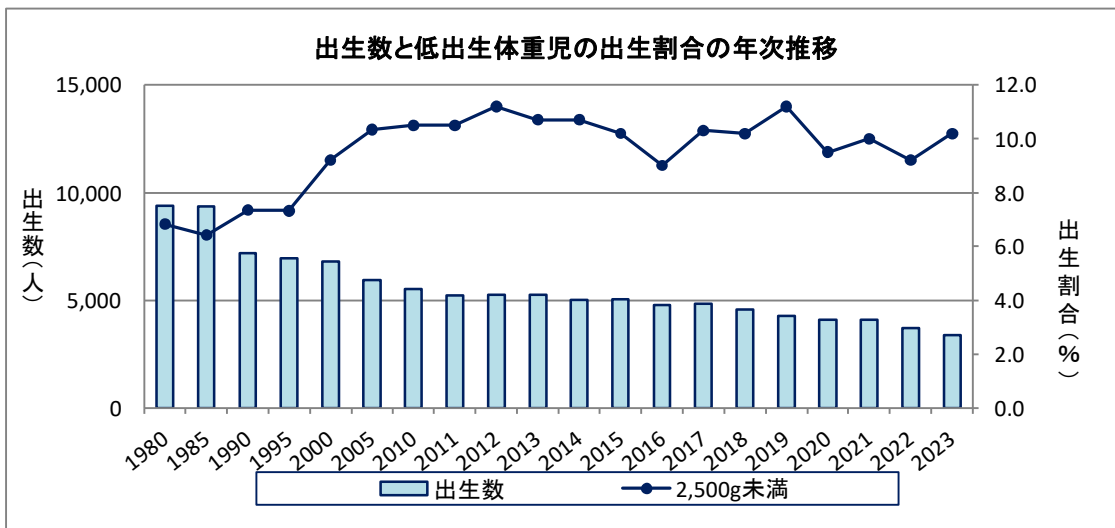
調査年	高知県		全国		高知県低出生体重児数						2,500g～	不詳
	出生数	出生率 (対千人)	出生数	出生率 (対千人)	～499g	500～ 999g	1,000～ 1,499g	1,500～ 2,499g	低出生 体重児計	出生に占 める割合		
1980	9,378	11.3	1,576,889	13.6	0	11	40	589	640	6.8%	8,737	1
1985	9,350	11.1	1,431,577	11.9	0	17	42	541	600	6.4%	8,749	1
1990	7,182	8.7	1,221,585	10.0	2	16	23	487	528	7.4%	6,653	1
1995	6,939	8.5	1,187,064	9.6	0	13	29	467	509	7.3%	6,429	1
2000	6,811	8.4	1,190,547	9.5	0	19	35	573	627	9.2%	6,183	1
2005	5,916	7.4	1,062,530	8.8	1	20	28	563	612	10.3%	5,303	1
2010	5,518	7.2	1,071,306	8.5	0	19	27	532	578	10.5%	4,939	1
2011	5,244	6.9	1,050,806	8.3	2	13	33	502	550	10.5%	4,691	3
2012	5,266	7.0	1,037,231	8.2	0	27	29	536	592	11.2%	4,674	0
2013	5,266	7.1	1,029,816	8.2	1	14	37	511	563	10.7%	4,701	2
2014	5,015	6.8	1,003,539	8.0	1	9	38	487	535	10.7%	4,478	2
2015	5,052	7.0	1,005,677	8.0	0	17	29	471	517	10.2%	4,534	1
2016	4,779	6.7	976,978	7.8	4	12	16	397	429	9.0%	4,347	3
2017	4,837	6.8	946,065	7.6	2	16	21	457	496	10.3%	4,339	2
2018	4,559	6.5	918,397	7.4	2	17	35	413	467	10.2%	4,089	3
2019	4,270	6.2	865,239	7.0	1	14	16	446	477	11.2%	3,792	1
2020	4,082	5.9	840,835	6.8	0	11	27	348	386	9.5%	3,694	2
2021	4,090	6.0	811,622	6.6	1	13	21	375	410	10.0%	3,680	0
2022	3,721	5.5	770,759	6.3	2	9	26	307	344	9.2%	3,376	1
2023	3,380	5.1	727,288	6.0	1	8	20	317	346	10.2%	3,031	3
2024	3,108	4.8	686,173	5.7					303	9.7%	2,805	

※低出生体重児に関して、2024年は概数値



# 体重区分別出生児数

調査年	出生数						体重別構成割合(%)				体重別構成割合(%)全国			
	出生数	不詳	1,000g未満	1,000～1,499g	1,500～2,499g	2,500g以上	1,000g未満	1,000～1,499g	1,500～2,499g	2,500g以上	1,000g未満	1,000～1,499g	1,500～2,499g	2,500g以上
1980	9,378	1	11	40	589	8,737	0.1	0.4	6.3	93.2	0.1	0.3	4.8	94.8
1985	9,350	1	17	42	541	8,749	0.2	0.4	5.8	93.6	0.2	0.3	5.0	94.5
1990	7,182	1	18	23	487	6,653	0.3	0.3	6.8	92.6	0.2	0.3	5.8	93.7
1995	6,939	1	13	29	467	6,429	0.2	0.4	6.7	92.7	0.2	0.4	6.9	92.5
2000	6,811	1	19	35	573	6,183	0.3	0.5	8.4	90.8	0.2	0.4	8.0	91.4
2005	5,916	1	21	28	563	5,303	0.4	0.5	9.5	89.6	0.3	0.5	8.8	90.4
2010	5,518	1	19	27	532	4,939	0.3	0.5	9.6	89.5	0.3	0.5	8.9	90.3
2011	5,244	3	15	33	502	4,691	0.3	0.6	9.6	89.5	0.3	0.5	8.8	90.4
2012	5,266	0	27	29	536	4,674	0.5	0.6	10.2	88.8	0.3	0.5	8.8	90.4
2013	5,266	2	15	37	511	4,701	0.3	0.7	9.7	89.3	0.3	0.5	8.8	90.4
2014	5,015	2	10	38	487	4,478	0.2	0.8	9.7	89.3	0.3	0.5	8.8	90.4
2015	5,052	1	17	29	471	4,534	0.3	0.6	9.3	89.7	0.3	0.4	8.7	90.5
2016	4,779	3	16	16	397	4,347	0.3	0.3	8.3	91.0	0.3	0.4	8.7	90.6
2017	4,837	2	18	21	457	4,339	0.4	0.4	9.4	89.7	0.3	0.4	8.7	90.5
2018	4,559	3	19	35	413	4,089	0.4	0.8	9.1	89.7	0.3	0.4	8.7	90.5
2019	4,270	1	15	16	446	3,792	0.4	0.4	10.4	88.8	0.3	0.4	8.7	90.6
2020	4,082	2	11	27	348	3,694	0.3	0.7	8.5	90.5	0.3	0.4	8.5	90.8
2021	4,090	0	14	21	375	3,680	0.3	0.5	9.2	90.0	0.3	0.4	8.6	90.6
2022	3,721	1	11	26	307	3,376	0.3	0.7	8.3	90.7	0.3	0.4	8.7	90.6
2023	3,380	3	9	20	317	3,031	0.3	0.6	9.4	89.7	0.3	0.4	8.9	90.3



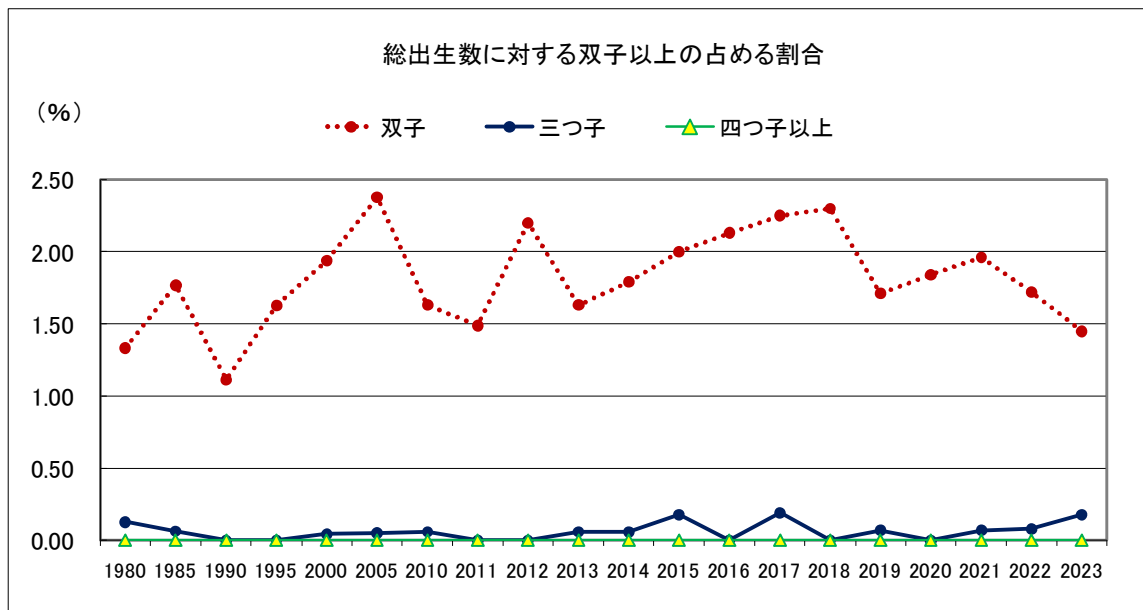
出生数に対する双子以上の占める割合

調査年	単児	双子	三つ子	四つ子以上	双子以上 (再掲)
1980	98.54	1.33	0.13	0.00	1.46
1985	98.17	1.77	0.06	0.00	1.83
1990	98.89	1.11	0.00	0.00	1.11
1995	98.37	1.63	0.00	0.00	1.63
2000	98.02	1.94	0.04	0.00	1.98
2005	97.57	2.38	0.05	0.00	2.43
2010	98.31	1.63	0.06	0.00	1.69
2011	98.51	1.49	0.00	0.00	1.49
2012	97.80	2.20	0.00	0.00	2.20
2013	98.31	1.63	0.06	0.00	1.69
2014	98.15	1.79	0.06	0.00	1.85
2015	97.82	2.00	0.18	0.00	2.18
2016	97.87	2.13	0.00	0.00	2.13
2017	97.56	2.25	0.19	0.00	2.44
2018	97.70	2.30	0.00	0.00	2.30
2019	98.22	1.71	0.07	0.00	1.78
2020	98.16	1.84	0.00	0.00	1.84
2021	97.97	1.96	0.07	0.00	2.03
2022	98.20	1.72	0.08	0.00	1.80
<b>2023</b>	<b>98.37</b>	<b>1.45</b>	<b>0.18</b>	<b>0.00</b>	<b>1.63</b>

※全国 2.30

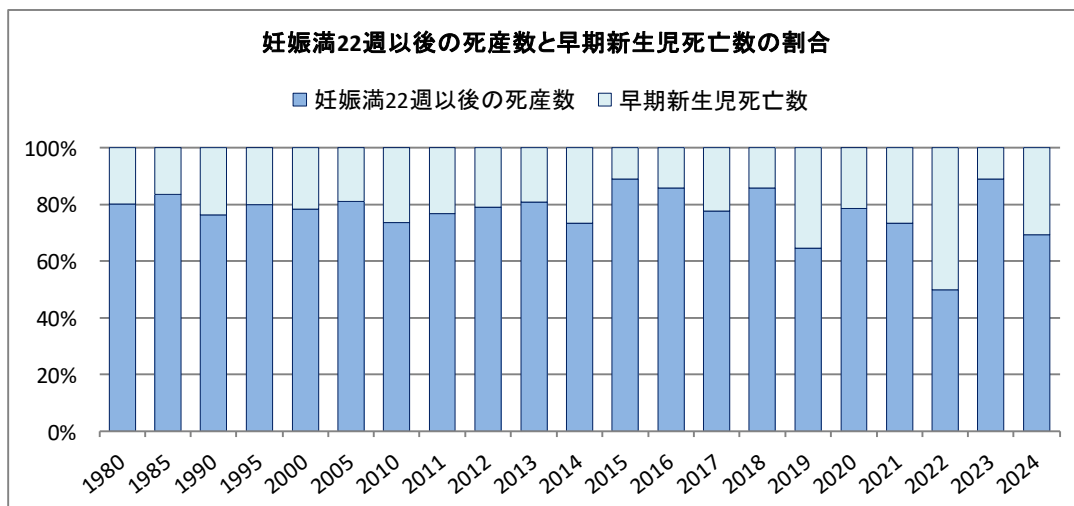
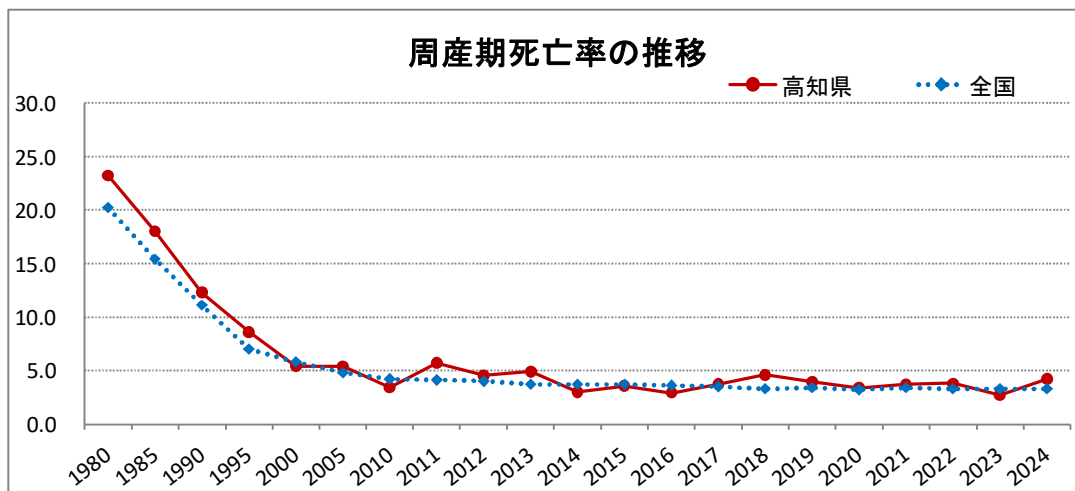
双子以上の出生数

調査年	単児	双子	三つ子	四つ子以上
1980	9,241	125	12	0
1985	9,179	165	6	0
1990	7,102	80	0	0
1995	6,826	113	0	0
2000	6,676	132	3	0
2005	5,772	141	3	0
2010	5,425	90	3	0
2011	5,166	78	0	0
2012	5,150	116	0	0
2013	5,177	86	3	0
2014	4,922	90	3	0
2015	4,942	101	9	0
2016	4,677	102	0	0
2017	4,719	109	9	0
2018	4,454	105	0	0
2019	4,194	73	3	0
2020	4,007	75	0	0
2021	4,007	80	3	0
2022	3,654	64	3	0
<b>2023</b>	<b>3,325</b>	<b>49</b>	<b>6</b>	<b>0</b>



# 周産期死亡

調査年	高知県					全国	ワーストからの順位 ★は上位10位以内 ☆は下位10位以内
	出産数(妊娠満22週以後の死産数+出生数)	周産期死亡数	妊娠満22週以後の死産数	早期新生児死亡数	周産期死亡率(出産千対)	周産期死亡率(出産千対)	
1980	9,556	222	178	44	23.2	20.2	12位
1985	9,493	171	143	28	18.0	15.4	1位 ★
1990	7,250	89	68	21	12.3	11.1	6位 ★
1995	6,987	60	48	12	8.6	7.0	4位 ★
2000	6,840	37	29	8	5.4	5.8	30位
2005	5,942	32	26	6	5.4	4.8	9位 ★
2010	5,532	19	14	5	3.4	4.2	43位 ☆
2011	5,267	30	23	7	5.7	4.1	1位 ★
2012	5,285	24	19	5	4.5	4.0	10位 ★
2013	5,287	26	21	5	4.9	3.7	3位 ★
2014	5,026	15	11	4	3.0	3.7	41位 ☆
2015	5,068	18	16	2	3.6	3.7	28位
2016	4,791	14	12	2	2.9	3.6	41位 ☆
2017	4,851	18	14	4	3.7	3.5	18位
2018	4,577	21	18	3	4.6	3.3	2位 ★
2019	4,281	17	11	6	4.0	3.4	12位
2020	4,093	14	11	3	3.4	3.2	23位
2021	4,101	15	11	4	3.7	3.4	16位
2022	3,728	14	7	7	3.8	3.3	10位 ★
2023	3,388	9	8	1	2.7	3.3	39位 ☆
2024	3,117	13	9	4	4.2	3.3	5位 ★

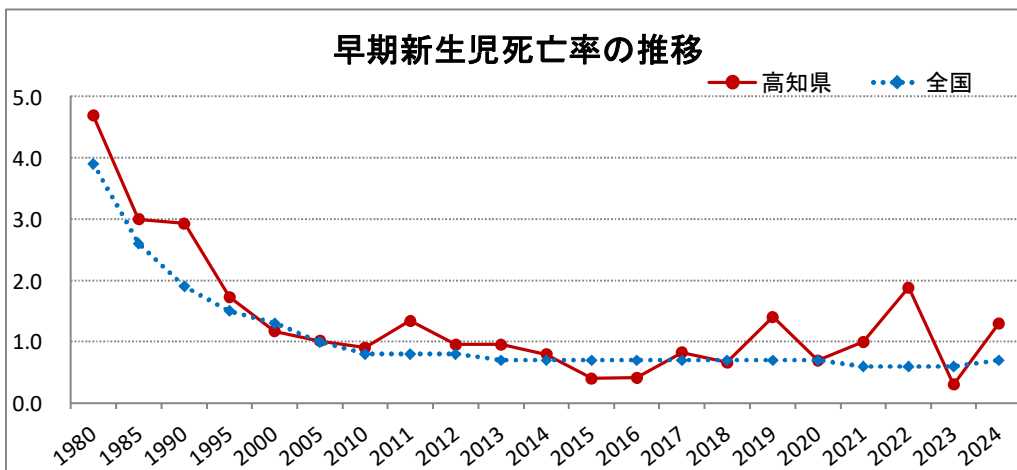
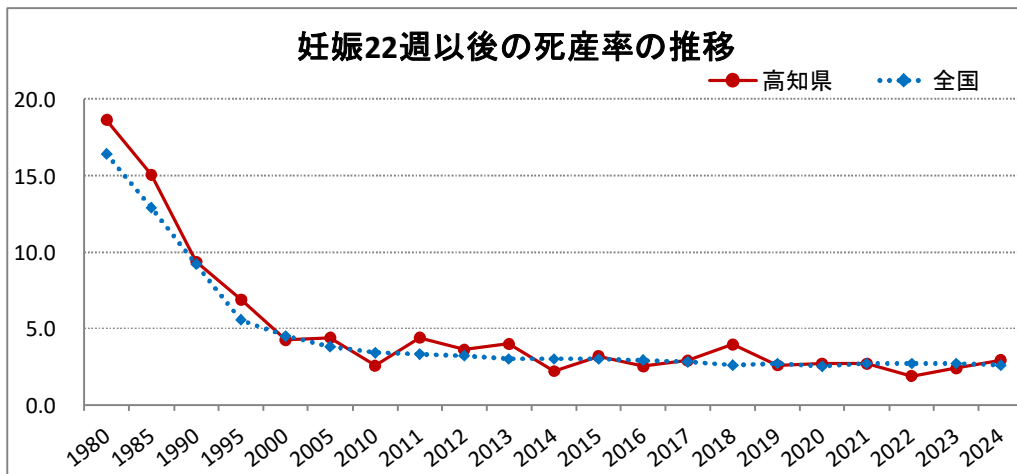


### 周産期死亡(妊娠22週以後の死産)

調査年	高知県			全国
	出産数(妊娠満22週以後の死産数+出生数)	妊娠満22週以後の死産数	妊娠満22週以後の死産率(出産千対)	妊娠満22週以後の死産率(出産千対)
1980	9,556	178	18.6	16.4
1985	9,493	143	15.1	12.9
1990	7,250	68	9.4	9.2
1995	6,987	48	6.9	5.5
2000	6,840	29	4.2	4.5
2005	5,942	26	4.4	3.8
2010	5,532	14	2.5	3.4
2011	5,267	23	4.4	3.3
2012	5,285	19	3.6	3.2
2013	5,287	21	4.0	3.0
2014	5,026	11	2.2	3.0
2015	5,068	16	3.2	3.0
2016	4,791	12	2.5	2.9
2017	4,851	14	2.9	2.8
2018	4,577	18	3.9	2.6
2019	4,281	11	2.6	2.7
2020	4,093	11	2.7	2.5
2021	4,101	11	2.7	2.7
2022	3,728	7	1.9	2.7
2023	3,388	8	2.4	2.7
2024	3,117	9	2.9	2.6

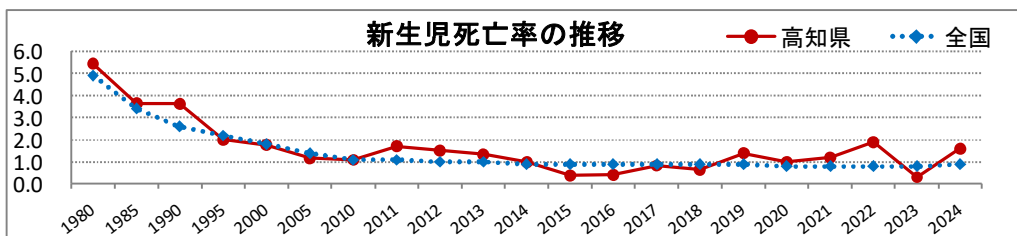
### 周産期死亡(早期新生児死亡)

調査年	高知県			全国
	出生数	早期新生児死亡数	早期新生児死亡率(出生千対)	早期新生児死亡率(出生千対)
1980	9,378	44	4.7	3.9
1985	9,350	28	3.0	2.6
1990	7,182	21	2.9	1.9
1995	6,939	12	1.7	1.5
2000	6,811	8	1.2	1.3
2005	5,916	6	1.0	1.0
2010	5,518	5	0.9	0.8
2011	5,244	7	1.3	0.8
2012	5,266	5	0.9	0.8
2013	5,266	5	0.9	0.7
2014	5,015	4	0.8	0.7
2015	5,052	2	0.4	0.7
2016	4,779	2	0.4	0.7
2017	4,837	4	0.8	0.7
2018	4,559	3	0.7	0.7
2019	4,270	6	1.4	0.7
2020	4,082	3	0.7	0.7
2021	4,090	4	1.0	0.6
2022	3,721	7	1.9	0.6
2023	3,380	1	0.3	0.6
2024	3,117	4	1.3	0.7



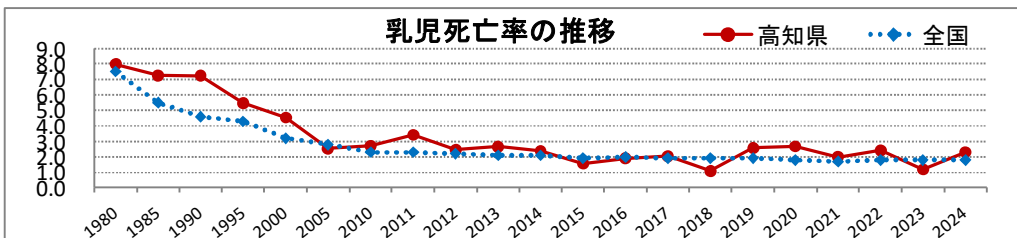
## 新生児死亡

調査年	高知県			全国	ワーストからの順位 ★は上位10位以内 ☆は下位10位以内
	出生数	新生児死亡数	新生児死亡率 (出生千対)	新生児死亡率 (出生千対)	
1980	9,378	51	5.4	4.9	17位
1985	9,350	34	3.6	3.4	21位
1990	7,182	26	3.6	2.6	3位 ★
1995	6,939	14	2.0	2.2	34位
2000	6,811	12	1.8	1.8	17位
2005	5,916	7	1.2	1.4	36位
2010	5,518	6	1.1	1.1	23位
2011	5,244	9	1.7	1.1	5位 ★
2012	5,266	8	1.5	1.0	7位 ★
2013	5,266	7	1.3	1.0	10位 ★
2014	5,015	5	1.0	0.9	20位
2015	5,052	2	0.4	0.9	44位 ☆
2016	4,779	2	0.4	0.9	45位 ☆
2017	4,837	4	0.8	0.9	27位
2018	4,559	3	0.7	0.9	36位
2019	4,270	6	1.4	0.9	6位 ★
2020	4,082	4	1.0	0.8	17位
2021	4,090	5	1.2	0.8	5位 ★
2022	3,721	7	1.9	0.8	1位 ★
2023	3,380	1	0.3	0.8	47位 ☆
<b>2024</b>	<b>3,108</b>	<b>5</b>	<b>1.6</b>	<b>0.9</b>	<b>3位 ★</b>



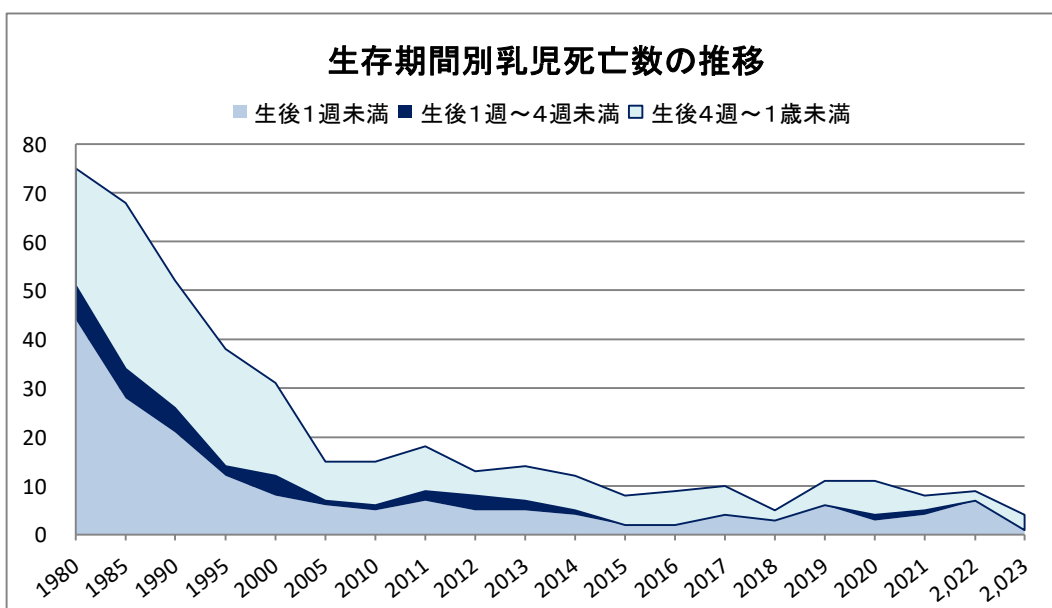
## 乳児死亡

調査年	高知			全国	ワーストからの順位 ★は上位10位以内 ☆は下位10位以内
	出生数	乳児死亡数	乳児死亡率 (出生千対)	乳児死亡率 (出生千対)	
1980	9,378	75	8.0	7.5	17位
1985	9,350	68	7.3	5.5	2位 ★
1990	7,182	52	7.2	4.6	1位 ★
1995	6,939	38	5.5	4.3	4位 ★
2000	6,811	31	4.6	3.2	2位 ★
2005	5,916	15	2.5	2.8	35位
2010	5,518	15	2.7	2.3	6位 ★
2011	5,244	18	3.4	2.3	4位 ★
2012	5,266	13	2.5	2.2	13位
2013	5,266	14	2.7	2.1	8位 ★
2014	5,015	12	2.4	2.1	14位
2015	5,052	8	1.6	1.9	34位
2016	4,779	9	1.9	2.0	32位
2017	4,837	10	2.1	1.9	15位
2018	4,559	5	1.1	1.9	45位 ☆
2019	4,270	11	2.6	1.9	6位 ★
2020	4,082	11	2.7	1.8	3位 ★
2021	4,090	8	2.0	1.7	15位
2022	3,721	9	2.4	1.8	8位 ★
2023	3,380	4	1.2	1.8	46位 ☆
<b>2024</b>	<b>3,108</b>	<b>7</b>	<b>2.3</b>	<b>1.8</b>	<b>10位 ★</b>



## 生存期間別乳児死亡数の推移

調査年	乳児死亡数	生存期間別乳児死亡数(再掲)		
		生後1週未満	生後1週～4週未満	生後4週～1歳未満
1980	75	44	7	24
1985	68	28	6	34
1990	52	21	5	26
1995	38	12	2	24
2000	31	8	4	19
2005	15	6	1	8
2010	15	5	1	9
2011	18	7	2	9
2012	13	5	3	5
2013	14	5	2	7
2014	12	4	1	7
2015	8	2	0	6
2016	9	2	0	7
2017	10	4	0	6
2018	5	3	0	2
2019	11	6	0	5
2020	11	3	1	7
2021	8	4	1	3
2022	9	7	0	2
2023	4	1	0	3



母の年齢別出生数の推移

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上
2006	113	838	1,905	2,181	868	110
2007	96	772	1,688	2,056	958	147
2008	93	767	1,740	2,054	992	142
2009	90	669	1,615	1,902	971	168
2010	79	662	1,623	1,872	1,101	181
2011	92	592	1,554	1,764	1,053	189
2012	74	526	1,570	1,798	1,084	214
2013	90	526	1,542	1,772	1,094	242
2014	81	502	1,380	1,713	1,108	231
2015	85	516	1,370	1,756	1,024	301
2016	63	510	1,210	1,663	1,054	279
2017	71	480	1,233	1,623	1,120	310
2018	67	456	1,184	1,545	1,040	267
2019	39	432	1,089	1,467	983	260
2020	43	363	1,104	1,325	1,002	245
2021	30	363	1,080	1,362	969	286
2022	28	322	1,065	1,167	868	271
2023	26	265	936	1,097	818	238

母の年齢別出生数構成割合(%)の推移

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上
2006	1.9	13.9	31.7	36.3	14.4	1.8
2007	1.7	13.5	29.5	35.9	16.8	2.6
2008	1.6	13.3	30.1	35.5	17.1	2.4
2009	1.7	12.4	29.8	35.1	17.9	3.1
2010	1.4	12.0	29.4	33.9	20.0	3.3
2011	1.8	11.3	29.6	33.6	20.1	3.6
2012	1.4	10.0	29.8	34.1	20.6	4.1
2013	1.7	10.0	29.3	33.6	20.8	4.6
2014	1.6	10.0	27.5	34.2	22.1	4.6
2015	1.7	10.2	27.1	34.8	20.3	5.9
2016	1.3	10.7	25.3	34.8	22.1	5.8
2017	1.5	9.9	25.5	33.6	23.2	6.4
2018	1.5	10.0	26.0	33.9	22.8	5.9
2019	0.9	10.1	25.5	34.4	23.0	6.1
2020	1.1	8.9	27.0	32.5	24.5	6.0
2021	0.7	8.9	26.4	33.3	23.7	7.0
2022	0.8	8.7	28.6	31.4	23.3	7.3
2023	0.8	7.8	27.7	32.5	24.2	7.0

